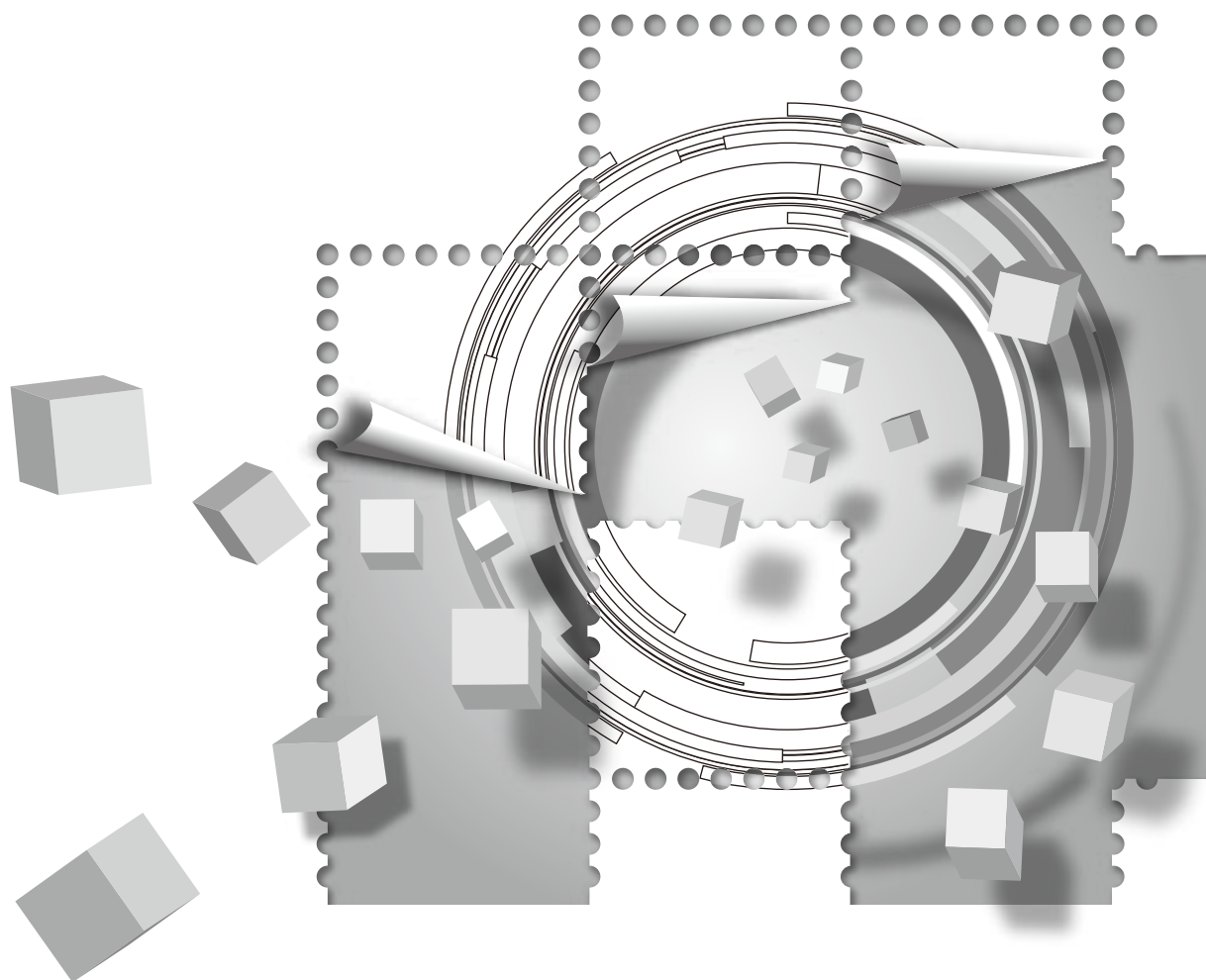


子どもの貧困は 他人ごとですか？

どこにもある「子どもの新しい貧困」に気づき、寄り添い、
そして立ち向かう市民の実践

2016 年度 3 つの地域フォーラム報告



目 次

はじめに	～フォーラムを終えて 吉村 恭二	1
◆逗子にもある〈新しい貧困〉を知る～食・教育・心・もちろんお金も～		3
講演	地域みんなで子どもの未来を応援するために 栗林知絵子さん	5
報告 1	子ども食堂づくり逗子物語 草柳ゆきゑさん	12
報告 2	学ぶ喜び、再発見～自信を育む学習支援&指導～ 吉原千草さん / 田中雅紀さん	13
報告 3	子どもも、大人も自尊心を育てよう 全田和也さん	15
◆さがみにもある子どもの〈新しい貧困〉を知る		17
講演	困難な状況を生きる子どもたちに心のよりどころとなる「場」を 湊岳美さん	19
報告 1	「あいおい」みんなの食堂の活動 佐藤純子さん	27
報告 2	無料学習塾 相模原みのり塾の活動 小布施実穂子さん	28
報告 3	フードバンク ワンエイドの活動 松本篤さん	30
報告 4	さがみエリアのコミュニティを探ろう 矢野克子さん	32
◆港北にもある子どもの〈新しい貧困〉を知る ～食・教育・心・もちろんお金も～		37
講演	地域みんなで子どもの未来を応援するために、つながりあって、共に生きる社会をめざして！ 西野博之さん	39
報告 1	プレイパークはみんなの居場所 山口園子さん / はんすさん	50
報告 2	べんきょう会はたくさんの人に支えられている！ 鈴木澄江さん	51
報告 3	ミエルは「新しいコト」を起こすプラットフォーム 鈴木智香子さん	54
報告 4	地域食堂「大倉山みんなの食堂」 宇田川規夫さん	56
◆2016 年度 3 つの地域フォーラム概要		58
あとがき 感謝		60

この冊子は 2017 年 2 月～4 月 (2016 年度) に県下 3 か所で開催した 3 つのフォーラムの講演・報告をまとめたものです。3 つのフォーラムの概要は P 58-59 に付記しました。
後援、協賛いただいた皆様に感謝申し上げます。

逗子会場 主催：市民実行委員会 + かながわ生き活き市民基金

後援：湘南生活クラブ

さがみ会場 主催：市民実行委員会 + さがみ生活クラブ + かながわ生き活き市民基金

港北会場 主催：市民実行委員会 + 横浜北生活クラブ + かながわ生き活き市民基金

後援：港北区 協賛：港北社協、横浜 YMCA

はじめに～フォーラムを終えて

公益財団法人かながわ生き生き市民基金 理事長 吉村 恭二

今私たちが暮らしている日本社会には「格差社会」と表現される事象が多く存在しています。

その「格差」とは所得額で表される経済格差を指すことが多いのですが、計数化できる所得額における格差のみならず、社会生活を送っていくのに必要とされる多様な要素、情緒や感情、対人コミュニケーション能力、学習機会の貧困など、いわば計数化できる量的なもののみにとどまらず生活の質的なものに拡がっている格差とでもいえるものです。

特に乳幼児、少年期の人間性の発達期にそうした「格差」の中に身をおく子どもたちに焦点をあてて「子どもの新しい貧困」を考える「地域フォーラムを企画、実施」した結果をまとめたのが、この報告書です。

あえて「地域フォーラム」としたのは地域で暮らす市民が企画し、地域に存在する課題を考える「フォーラム」でありたいとの願いからです。まず「子どもの新しい貧困」とは何かを考えてみるため、少し長い引用文ですが、あらためて一緒に考えてください。

子どもの貧困を「子どもが経済的困難と社会生活に必要なものの欠乏状態におかれ、発達の諸段階における様々な機会が奪われた結果、人生全体に影響を与えるほどの多くの不利を負ってしまうこと」と定義し、子どもの「いま」と同時に将来をも脅かす重大な社会的問題としてとらえている。

貧困の中心は「お金がない」という経済的困難であるけれども、そうした経済的困難が様々な不利（衣食住、いのち・健康を守るための医療、余暇活動・遊び、日常的な養育・学習環境・学校教育などの側面における不利）をもたらすという。これらの不利は連鎖・複合化し、子どもの能力の伸長を阻み、低い自己評価をもたらし、人や社会との関係性を絶ち切るといった作用にまで発展する可能性を持つ。

（子どもの貧困白書 明石書店 2009年9月発行）

地域フォーラムは、この子どもの「新しい貧困」問題に逗子市、相模原市・座間市、横浜市港北地区という3つの異なる地域で取り組んでいる市民グループの事例を学びあう機会としたのです。どの会場も予想をはるかに越える熱気あふれる雰囲気に入れ、参加者が熱心に集う会となりました。

3つのフォーラム共に市民が主体的に取り組んでいる活動の実践例からの学びが中心でしたが、学童期に生活している子ども達にとっては「学校教育」の問題点は避けて通れません。義務教育であるにもかかわらず、小学校生活で親の負担は年間約30万円、中学校

生活にいたっては年間45万円、これに制服代や部活動、修学旅行費用などを加えると数十万円を加算することになるといわれます。これらの経済負担が出来ないために人知れず悩んでいる子ども達が多くいることなどは、今回の地域フォーラムでは考えることが出来ませんでした。

さらには「いのち」に直接かかわる医療問題など、「新しい貧困」がひきおこす連鎖の課題についても今後ほり下げていかなければならない多くの課題をつみ残しています。

行政などへの必要な政策提言をまとめていく事も大きな課題です。

学校教育の教科学習そのものに多額の費用が掛かっていることの問題点は年間所得の低い家庭にとって大きな、大きな苦痛を伴うものですし、そのために食費・医療費などを切り詰めざるを得ないという多くの事例を耳にします。

この学校教育に付随して発生する経費などは貧困家庭にとっての大問題ですが、ごく普通の家庭にとっても再検討してほしい内容を含んでいると言われます。

例えば中学に入学すると制服のために多額の費用が掛かりますが、思い切って制服廃止をしてはどうかと問題提起し父母・教師などが話し合った結果、廃止することを決めたある私立女子中・高があることを耳にしました。この学校は必ずしも「経済的理由」からではなく、学校が着衣までも制約することの是非が問われたのだということでしたが、それぞれの家庭が判断し、結果として余分な経費が減った、ということになったそうです。

各市町村教育委員会に「提言」して熱い議論をしてはどうでしょう。貧困を特定の問題だけとするのではなく、「個別」を「普遍化」してみると、教育全体を覆っている課題を見ることになっていくのではないのでしょうか。

各市町村自治体には「民生委員」が委嘱されていますが、「なり手」がいないのが大きな問題だと報じられています。行政は民生委員に委嘱したい課題、たとえば貧困家庭の子どもと市民グループの橋渡しなど、いわゆるコーディネート機能を研修し身に付けてもらうことを通して、街の「人と人との結びつき」を創りだしていくことなど、時代的要請に対応するテーマを提示することで、かつて教員や会社員としてキャリアを積んだ人々に「新しい民生委員像」を提示することも可能なのではないのでしょうか。

次のステージでは、このような政策提言を含めて市民が考え合う機会となっていけばなどと考えています。

地域に根ざして子どもが新しい貧困に立ちむかっていく生活力を身につけていくために支援活動している有志グループ、諸団体により添って歩み続けて参りたいと思います。地域に根ざし共に生きる社会をつくり出していくために益々の努力をつみ重ねていきましょう。

逗子にもある新しい貧困を知る

～食・教育・心・もちろんお金も～



市民活動の報告



寄せられたメッセージ



実行委員会

2017 年 1 月 19 日 逗子市民交流センター

主催：市民実行委員会 + かながわ生き生き市民基金

後援：湘南生活クラブ

2017年2月19日（日）10：00-13：00 逗子市民交流センター

【講演】

地域みんなで子どもの未来を応援するために

豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク 理事長

栗林 知絵子さん

1. はじめに～私はおせっかいおばさん～

私は、豊島区池袋のおせっかいおばさんです。今日お話しする多くは、子どもたちからのつぶやきを聞いて学んだことです。私がなぜ、堂々とおせっかいおばさんと言っているか、それは、今は、大学生になってしまった息子の6年生の時の作文にあります。うちの子どもはまちで育ち、地域のたくさんの人たちに育てられました。そんな息子がこんな作文を書きました。



講演する栗林さん

「うちには、栗林知絵子というおせっかいおばさんがいます。

うちのまちにも、おせっかいおばさんとおじさんがたくさんいます。だからまちの交流がとても深いです。ぼくはそんなまちが大好きです。」

この作文を読んだ時に、なんてうちの子どもは幸せになんだろう。そして、私のこともおせっかいおばさんと認めてくれていることが分かりました。それで、私は堂々とおせっかいおばさんと言っています。

今日参加されている皆さんは情報発信力が強く、つながる力が強いと思うので、あえてお話ししたいと思います。小学校の頃に知り合った子が中学校卒業後、高校へ入学しましたが、中退して就職しました。当時、原発事故が発生していて、放射能の安全性が問題になっていました。そんな彼に、「屋外での仕事は危ない」と言うと、「毎日、アスベストを浴びながら仕事をしている」と返ってきたので、「若いから危ないよ」と言うと、「栗ば一、俺は、そうしないと仕事がない。偽善者ぶらないで欲しい。」と言われ反省しました。子ども達に情報を伝えることは、重要だからと一方的に伝えるのではなく、子どもが置かれている立場にたち、対話の場を作り、地域で協力してどうやってサポートできるかを考えていかなければいけないと思いました。今日は、そんな視点も持ってお話ししていきたいと思います。

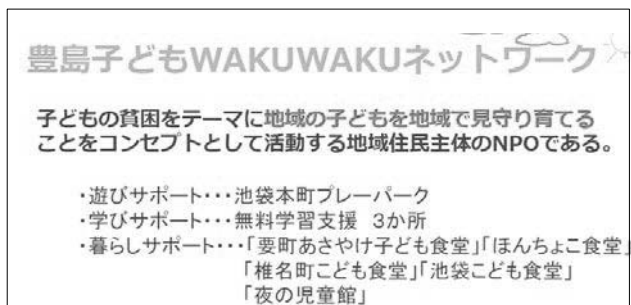
2. 子ども食堂づくり要町物語（1）～おせっかいおばさんは頑張った～

まず、私がおせっかいおばさんとして、豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク¹に携わり、子ども食堂をつくるようになったかをお話しします。このネットワークは子どもの貧困をテーマに、地域の子どもの地域で見守り育てるために活動する、地域住民主体のNPOで

¹ NPO 法人豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク編著『子ども食堂をつくろう！』2016 明石書店

す。

その活動は、地域の中で暮らしサポートとして子ども食堂（4 か所）、学びサポートとして無料学習支援活動（3 か所）、遊びサポートとして子ども達が自由にあそべるプレイパーク（1 か所）を行っています。（資料1）



資料 1 豊島子ども WAKUWAKU ネットワークとは

私は、子ども時代は、自然豊かな環境で過ごしました。都会の池袋で暮らす中で、2004年に豊島区が開設したプレイパークの活動に関わるようになりました。プレイパークには、色々な子どもが集まってきました。「昨日からご飯を食べていない」「引っ越してくる前は、車で寝ていた」「昨日もママが殴られてパトカーが来た」「ママが酔っ払ってゲーム機に包丁を刺した」「ママが、今は無理だけど中学校になったらユニフォームを買ってくれと言ってる」・私の知らない環境にあるそんな子どもに対して私は何もできません。毎日、せつせといっぱいのおにぎりを握って通いました。

2008年のお正月、ニュース番組の「年越し派遣村」の映像は衝撃的でした。仕事と住まいを失い、日比谷公園で年を越す大勢の人たちがテレビに映っていました。そして、テレビに映っている人たちと身近にいる子どもたちは、つながっているのではないかと思いはじめました。2010年の春から年越し派遣村村長の湯浅誠氏が始めた貧困問題の勉強会に通い始めました。講座では、雇用と労働、社会保障、ひとり親、障がい、ホームレスなど色々なことを知りました。また、湯浅さんからのアドバイスもあり、地域で少しずつ仲間の輪をひろげていきました。

一人の子どものサポートから始まったネットワークづくり

そんな2011年の夏、一人の子のSOSに出会いました。プレイパークに来ている中学3年生のK君に近所のスーパーでばったり出会い、「久しぶりだね。受験勉強がんばってる？」と声をかけました。「先生に、都立高校は無理って言われた。高校いけないかも知れない」「どうしてよ？ まだ、夏休みなのに。今から行けないなんて決めることないよ」「勉強の仕方がわからない。どうしていいかわからない」「本当に勉強したいのなら教えてあげるよ」と私は応えました。それに対して、K君は勉強を教えて欲しいとすぐに応え、我が家での勉強会が始まりました。初めて来た日は、小学生用の小数点の足し算、掛け算などのドリルを持ってきて、勉強のやり方、高校進学について、誰に聞いていいのかわからないことを話してくれました。K君の困りごとを聞いてしまった私は、もう彼をほっておけなくなりました。

K君の家庭は母子家庭でお母さんは昼も夜も仕事です。お母さんは子ども二人のために、500円ずつ渡して、兄弟は毎日弁当を買い、各々、一人で食べる暮らしでした。私は彼に、「500円は貯金して、ご飯と一緒に食べよう」と言った時、「栗ばーの家、家族みんなで、

ごはんを食べるの？ 気持ちワル～」と言われたことがありました。K 君には、小さい頃誰もが経験する当たり前の家族だんらんがありませんでした。これが見えない貧困である相対的貧困です。プレイパークに来ていた時にはまったくわかりませんでした。私は会社から帰るとご飯の支度をして、それから K 君と一緒に勉強です。夜の予定はすべてキャンセルして彼に寄り添いましたが、1 か月もすると私自身だけでは抱えきれなくなり、プレイパークに来ているボランティアの学生に、「夜のご飯は用意するから協力して欲しい」とお願いし、サポートを継続することができました。学生たちは、一人暮らしで経済的には困っていませんでしたが孤食でした。K 君との夕食には毎日学生が集まり、ワイワイと食卓を囲んでいました。彼は、2012 年 4 月に都立の底辺校ですが進学することができ、卒業し自動車修理工場に就職することができました。彼の場合は中学校 3 年生からでしたが、これが小学生から勉強を教えることができれば、彼の人生はまた違ったものになっていたかと思います。

2012 年 6 月、K 君の受験報告会を開催し、参加した地域住民 80 人に「地域の子どもを地域で見守り支えるために、ゆるやかにつながりたいね！」と呼び掛けて「豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク」が誕生しました。

本来は学校でしっかりと勉強を教えることが重要です。しかし、今の学校の先生や家庭は忙しくて一杯一杯、それならば、地域で学ぶ場を作ってはどうかと思いました。掛け算の勉強でつまづく子、お金の問題で塾や模擬試験を我慢する子どもがいることを知り、2013 年 2 月から公の集会室で、誰でもが参加できる無料学習支援池袋 WAKUWAKU 勉強会を始めしています。小・中・高の子どもたちが参加できます。

一人の子どものサポートから始まったネットワークづくりを通じて、貧困の問題に関わりなく家庭のだんらんが得ることが難しい子ども、シングルマザーで仕事をせざるを得ない家庭、両親はいるけれども仕事が忙しくだんらんが作れない子どもたちがたくさんいることが分かりました。誰もが普通に当たり前に持っていただんらんが持てない子どもたちが身近にいるんです。家庭でだんらんが作れないならばどうするか、それならば次のコミュニティである地域でだんらんをつくろう。皆で作っていこうということになり、子ども食堂が誕生しました。

3. 子ども食堂づくり要町物語 (2) ～いろいろな人が救われた～

もう一つ、子ども食堂が誕生したきっかけがあります。私がお客さんとして通っていた天然酵母のパン屋さんをやっていた奥さんが病気で亡くなり、原発事故があり、息子さんたちが関西に移住し、60 歳を超えた山田さんは、大きい一軒家でひとりぼっちになりました。家族がいたころ山田さんのお宅はにぎやかな家でしたが、一人になると電話も鳴らない、誰も来ない日々を過ごすことになりました。「一人になるとテレビを見る気も、ご飯食べる気もしないんだよね…」私は山田さんのつぶやきを聞き、今度は山田さんをほっておけなくなりました。「山田さんちでにぎやかなこと何かしたいね」と言っていたそんなある日、山

田さん自身が「わが家を使ってみんなでご飯食べる子ども食堂やりたいんだ」と言いだしてくれ、すぐ準備が始まりました。この子ども食堂は「要町あさやけ子ども食堂」といいます。山田さんが、暗い真夜中ずっとどん底だったけれど、今は朝が来た気分、「あさやけの時」という思いで名付けた子ども食堂です。有機農家さんからの食材提供、調理は地域の主婦たちが参加し子どもが一人でも来られる食堂です。経済的に厳しい家庭の子だけではなく、一人親家庭で誰かと一緒にご飯が食べられない子、人間関係が苦手な子など、同じものを同じところでみんなで食べる食堂として2013年春「要町あさやけ子ども食堂」が誕生しました。

地域の誰かが家族のように伴走して子ども達の成長を見守る

地域で子ども食堂を開くと、みんなそれぞれにたくさんのものを抱えて頑張っていることが分かりました。クラタさんは介護福祉の仕事をパートで行いながら一人娘を育てているシングルマザーでした。シングルマザー世帯であることをからかわれた娘さんは小学校2年生の頃から不登校になってしまい、子どもが心配でクラタさん自身も家を出られなくなりました。そんなクラタさんを私は何度も子ども食堂に誘いました。しつこく誘ったので「しょうがないので一回だけ行こう」と言って来てくれました。行ってみたらそこには、専門職でもなんでもない近所のおばちゃんが待っており、「よく来たね」と温かく迎えてくれました。来てくれるだけで褒め、それがきっかけとなって親子で来られるようになりました。娘もだんだんと子ども食堂をお手伝いするようになって、人参を切っても褒められ、きゅうりを切っても褒められて、皆から褒められるようになり、その姿をみていたお母さんも元気を取り戻していきました。娘は中学校に通いはじめました。お母さんも地域のおせっかいさんが正職員の仕事につなげ、一歩踏み出すことができました。つらい時期には生活保護を利用し生活をつなぎ、次は地域のつながりを利用し生活を立て直すことができました。

色々な子どもたちが子ども食堂に来てくれます。子ども食堂のよさは地域のみんなから支えられていることです。小学校、中学校の担任では、ずっと子どもに係わっていくことはできませんが、地域は伴走できます。ずっと地域の誰かが家族のように伴走して子どもたちの成長を見守ることができます。それが地域のすごさです。

4. 子ども食堂を巡る社会状況 ～子どもへの早期支援の重要性～

6人に1人の子どもが相対的貧困であることは皆さんもよくご存じのことと思います。子どもの貧困で特に問題なことは、継続的に貧困率が上昇していること、特にシングルマザーの貧困率が高く、同時に子どもや親の孤立化、子どもへの虐待も上昇しています。貧困と孤立と虐待は相関関係にあるのが分かります。少子化も進行しています。これをトータルで見ると自分の子どもとしてだけではなく、地域でも「まちの子ども」として関わっていかねばいけないと思います。豊島区の場合、外国籍の子どもたちが多く、親には言葉の壁があり低収入で情報も十分ではありません

乳幼児を抱えたおかあさんがしんどいのが日本で、子どもが成長すると公立の学校でも

負担する費用が大きく、子どもが大きくなった時、お母さんを心配して、やりたいことやズックの穴があいたことでも言いだせない子どもがいることをどうしたらいいだろうと考えます。

「子どもの貧困の社会的損失推計」

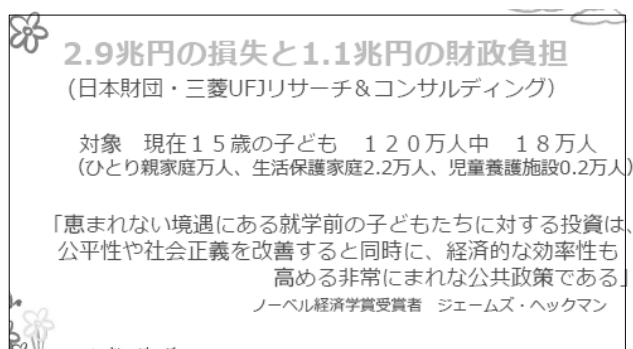
2015 年 12 月に日本財団が「子どもの貧困の社会的損失推計」というデータを発表しました² (資料 2)。この調

査では子どものうち、15 歳の子どもを抜きだし、特にひとり親家庭、生活保護家庭、養護施設にいる子どもたちの将来を推計し、手を差し伸べた場合と手を差し伸べなかった場合を比較するという調査です。

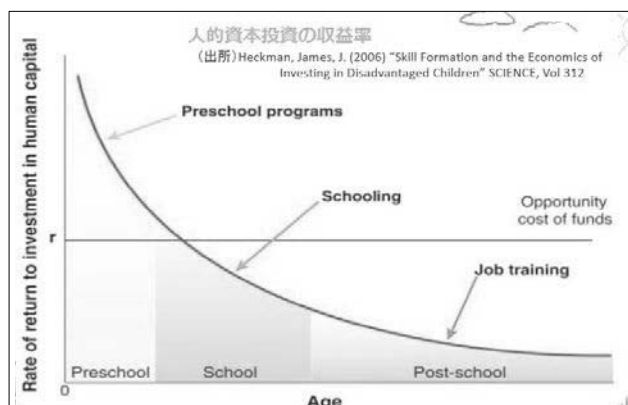
手を差し伸べなかった場合、将来的社会的損失が 2.9 兆円、財政収入の損失が 1.1 兆円³、合わせて 4 兆円の損失となってしまうと指摘しました。日本財団の報告の中にかかれているノーベル経済学賞受賞者のジェームズ・ヘックマンは、資料 2 後段にあるように、貧困状態にある就学前の子どもたちに投資（支援）することは、公平性等を改善し、経済的に効果的である公共政策で

あると指摘し、こんなグラフを載せています (資料 3)。横軸は年齢で左は就学前、小学校期、二十歳前後と考えられ、縦軸の人的資本投資効果をみると、就学前・小学校期の人的資本投資に高い効果があることを示しています。では就学前・小学校期の子どもたちはどこにいますのでしょうか。子どもたちはまちにしかいません。

子どもへの応援を将来の財政負担や経済的効率性で捉えることには、抵抗もありますが、遅れている子どもへの支援を充実させていくためにはこのような視点で話していくことも重要だと思います。今日の集まりに来られている方に不要と思いますが、まちにはいろんな人がいられて、関心のない方に自分ごととして考えてもらうためには有効と思い紹介しました。



資料 2 2.9 兆円と 1.1 兆円の財政負担



資料 3 人的資本投資の収益率

² 日本財団子どもの貧困対策チーム 『徹底調査 子供の貧困が日本を滅ぼす』、2016、文芸新書
(15 歳の子ども 120 万人のうち 18 万人が便宜的貧困に該当する)

³ <http://www.nippon-foundation.or.jp/news/articles/2015/71.html>

子どもたちが無料で依存体験をできる場をつくる

児童自立支援の理念からも子どもへの早期支援が重要と指摘されています。子どもは発達期において十分な依存体験が必要で、それにより信頼関係を育み自立へ繋がっていきます。そのため、子どもたちが依存体験をできる場が必要となってきます。家庭での依存体験が難しければ、地域でそんな場を作っていく必要があります。

家庭で依存体験にお金を介すことはありません。豊島子ども WAKUWAKU ネットワークでは、まさに地域にいる私たちができることとしてそんな思いで、まちの中で子どもたちが来なくなる無料の居場所を作っています。

具体的には、豊島子ども WAKUWAKU ネットワークが開設するプレイパークでは、勉強だけではない様々な物差しがあり、子どもたちは泥んこになって遊んでも叱られません。逆にいっぱい遊んだねと褒められます。土曜日に一回は火を使うこともできます。また、学習支援活動では、小学生から高校生、もちろん多国籍の子どもたちも参加し、その母親も日本語教室に参加しています。子ども食堂も多様な楽しさがあります。人を頼り、相手を思う力、つながる力をつけていきます。

いろいろな子ども食堂があっていいんです。就学前の子どもがお母さんと一緒にやってくる、お母さん自体がしんどい時にほっとできる場であったり、お弁当の作り方を教えてもらう中学生があったり、家族旅行に行けない家庭に代わって旅行や自然体験を行う子ども食堂があってもいいです。場所が狭いとか、遊ぶ場所がないとかは工夫して楽しくやっています。大切なのは、子ども食堂を地域で必要とする子どもがいるならば、なんとか始めたい、まちの子どもに十分な依存体験をしてもらいたいという思いです。子ども食堂は、住民主体が多様性となるので、いろいろあってよく、子どもが集まる場、つなぐ人の網目が細かくなれば、子どものためのセーフティネットができるのではないかと思います。

5. まとめ～子ども食堂は地域と子どもや人がつながる居場所～

子ども食堂も豊島区で 9 ヶ所設置されるようになると、行政から何か支援をしましょうかとお話がありました。行政からのお金（委託）もいらないし、口もだしてもらわなくていいのですが、行政は情報を届ける力、必要な子どもたちが見えているので、パンフレットを作って配布し、ネットワークをつくってくださいとお願いしました。立派なパンフレットが出来て広く区内で配布され、必要な子どもたちに情報を届けています。この様な活動で大切なことは、場があり情報を流すだけではなく、人と子どもと場所をつなぐ人がいることです。そのために私たちは地域にアンテナを立てて、気になる子どもをつないでいくことがこれからもっと必要です。

子ども食堂は、地域と子どもたちがつながるプラットフォームです。また、孤立しがちな家庭が地域とつながる場です。地域の交流拠点としての可能性を持っています。何とかやっているうちに緩やかなネットワークができ、みんなまちを好きになり、まちづくりにつながり、社会や将来の地域創造につながっていくと思います。さらに地域の女性たちの活躍の場

でもあります。女性の起業などの社会進出だけではなく、地域のおばちゃんたちの人材が集まり、子どもと地域をつなぎ、寄り添って伴走した子どもが成長し自立していく時、日本財団の試算する 4 兆円の負債を減らすような経済効果を地域のおばちゃんたちの活動でつくることができるのです。

「広がれ、こども食堂の輪！全国ツアー～地域みんなで子どもの未来を応援するために～」

地域に食べていない子どもがいるという現実、何とかしなければという人々がいて拡がっている子ども食堂が、地域の点から線へそして面となって拡がれば、子どもの未来を変えていけるのではないかと思います。「広がれ、こども食堂の輪！全国ツアー～地域みんなで子どもの未来を応援するために～」を企画しています。

現在子ども食堂は、全国で 400 か所ぐらいあります。子ども食堂と貧困を結びつけ、いじめにつながるのでは」など、子どもの声抜きで想像し、危惧する大人もいます。それも大事ですが、子どもの貧困は、見えにくく可視化しなければ無いものにされてしまうため、切れることのない啓発活動や、見せ方の工夫が必要です。難しいですが子どもの貧困を伝えつつ、子ども食堂を拡げていかなければならないと思っています。

子どもが歩いて通える距離に子ども食堂がなければ子どもは大人につながらず、拡がれば子どもだけではない、障がい者や高齢者などの地域みんなの居場所もなります。例えばウォシュレットは 40 年前に障がいを持った人・社会的弱者の尊厳を守るために開発され、社会に拡がり、40 年かけて誰もが使うトイレになりました。社会的に最も弱者なのは子どもです。どうやって場を確保しようか、人を集めようか、お米を調達しようか…、いろいろな手を考えながらこの取り組みを拡げていかなければなりません。子ども食堂がみんなの食堂になるには 40 年以上かかるかもしれませんが、拡がればだれにとっても住みやすいまちになるはずで、困っている人をキャッチするアンテナがいっぱい立っているまちになり、貧困も孤立も虐待も確実に減り、40 年後には社会が変わると思います。まずはだれでもやれることの一つとして、このフォーラムについて家族や友人に話す、そこから始めませんか。今日はありがとうございました。

【報告 1】

子ども食堂づくり逗子物語

ずし子ども0円食堂プロジェクト

代表 草柳 ゆきゑさん

私は、民生委員でかつ子どもに特化した主任児童員をやっています。今日は、ずし子ども0円食堂（以下、0円食堂）をどの様に始め、現在にいたっているかをお話しします。私は、民生委員として色々な地域の子どもの厳しい状況に接していました。そのうち段々と私たちでも何かできるのではないかという思いが強くなり10人の仲間が集まりました。仲間には看護師、セラピスト、保母等が入っています。皆で相談して、「人は食べることで幸せになれる、主婦ならば食事はつくることはできる」と子ども食堂をやることを決めました。



0円食堂看板と草柳さん

始めるにあたっては、課題がありました。まず、行き帰りの安全と万が一の事故・ケガの対応です。これにはボランティア保険を掛けました。保護者の承諾やアレルギーへの対応ですが、これには保護者からの承諾書をもらうことにしました。食材は、はじめは



資金や寄付がなかったのが、防災用品のアルファ米を利用させてもらった

資料 プレオープンの実施から 1

り、食材は持ち寄りとしました。また、逗子市や沼間小学校地区住民協議会などの協力をいただきました。また、貧困にある子どもとして後ろ指をさされてはいけけないので、「誰でもおいで」を基本にして、保育園、公立小中学校の協力を得て広くチラシを配布しました。最初から本格的に始めることは無理なので、プレオープン3回実施しました。プレオープン1回目は、2016年5月18日に福祉会館で実施し、約30名が参加しました。料理は具沢山のカレーです。大人300円で子どもは無料です。募金箱を設置し5000円の寄付が集まり、次の実施の資金となりました。プレオープン2回目は、6月29日に沼間地区コミュニティセンターで実施し、想定70人のところ100名を超える子どもたちが参加し、熱気にあふれた食事会となりました。参加した沼間中学校の先生も熱気に大変、喜んでいました。3回目は、7月21日に神社の社務所で実施し、約40数名が参加しました。お米の寄付やタウンニュースの取材がありました。タウ

ンニュースによる広報は効果的でした。その時に、子どもたちにアンケートを行いました。

その結果(資料)、何らかの理由で朝ごはんや夜ごはんが食べられていない子どもや一人でご飯を食べている子どもが地域にいたことが分かりました。私たちは、0円食堂を定例化していくことにしました。2016年8月から月2回、第1・第4水曜日16時から18時30分で沼間コミュニティセンターと体験学習施設で行うことにしました。両施設は行き易く、皆で調理ができる場所です。実施にあたっては、逗子市からボランティア保険料と施設使用料の補助を受けることができました。お手伝いをしたい子どもや大人でボランティアで手伝いたい方も寄付も増加しています。

子ども達は褒めれば成長することを実感しています。参加している子どもたちの「ながら声」を通じて子どもたちの状況にアンテナをはっています。今後は、更に、輪を広げて、逗子市小学校区毎に0円食堂を広げていきたいと思っています。今日はありがとうございました。

プレオープンの実施から

アンケートの集計結果から出た
合計43人中

- ・朝ごはんや夜ご飯を食べない日がけっこうある子ども 2人
- ・朝ごはんや夜ご飯を食べない日がたまにある子ども 10人
- ・だれもいなくひとりで夜ごはんを食べる日がけっこうある子ども 3人
- ・だれもいなくひとりで夜ごはんを食べる日がたまにある子ども 7人

「何らかの理由で朝ご飯や夜ご飯を食べない子」

「ひとりでご飯を食べている子」は確実にいることがわかりました

ならば私たちにできること
「ひとりでご飯を食べずに
みんなで食べよう」という場づくり

資料 プレオープンの実施から 2

【報告2】

学ぶ喜び、再発見～自信を育む学習支援&指導～

CoCoLoの会 代表 吉原 千草さん
学習指導部長 田中 雅紀さん

貧困には経済的な貧困だけでなく心の貧困もあると思います。今日は、心の貧困についてお話しします。私は大手塾に勤務していましたが、その時から勉強だけでなく、心のケアも大切にしなければいけないと思いストレスになっていました。その後、自立し、「CoCoLoの会」を地元のご協力で2010年に設立しました。モットーは勉強だけでなく、心を育み、子どもたちが、夢を持って毎日暮らせることを目指しています。



説明する吉原さんと田中さん

そのため積極的に課外活動を取り入れて、食育活動、自然観察会、特別養護施設訪問、フ

アクションショーなどを地域の協力を得て実施しました。2014年には逗子市からの「市民活動支援補助金」により不登校の子どもたちへのサポートを始めました。更に、2016年9月から地域のボランティアの方々と協力して「地域で子どもたちを育てる」活動を発展させています。地域の方から会への差し入れもあります。

様々な取り組みを実施していますが、子どもたちの中には、勉強以外のことで長所を認めても、内側から湧き上がる「自信」が生まれない子どもたちがいました。テストで結果がでるような、基礎学力が大切なことを改めて感じ、あらゆる塾教材を試しましたが、結果がでない子どもがいました。勉強以外の面でも、考えられうるあらゆる支援を行った結果、子どもたちは自分と向き合い、本当は、「勉強ができるようになりたい」と思っていることに気がつきました。やる気がでない子どもには、学ぶことを喜ぶために、子どもによりそい共感する支援チーム、解決策を見つける指導チームをつくりました。更に、子どもたちの認知特性にあわせた個別指導を行うようにしました。答えがあっているだけで正解としてしまうと、子どもがどの様に理解しているかを分らないで結果だけを押し付けてしまうことになり、子どもたちの中にはそれがつまずきの原因になることがあります。



CoCoLoの会は旧信用金庫を活用

例えば、問1「シズオくんは6個あめを持っています。ココロさんは7個あめを持っています。それでは全部で何個でしょうか」(合併)、問2「シズオくんは6個あめを持っています。お母さんが7個あめを買ってきてくれました。全部でいくつになりますか」(追加)。2つの問題の答えは13ですが、前者は「合併」、後者は「追加」で、答えに至るイメージ(考え方)は違います。このような違いを踏まえることが重要となります。

どんな子どもたちにも「学ぶ喜び」があるので、その気持ちを発見できるような学習支援・学習指導、LD(学習障害)の子どもたちの一人一人のサポートも強化しながら実施していきたいと思います。

今のところ、有料でこの様な支援・指導を行っていますが、地域の皆さんの協力の輪を広げて、来年度は有料に加え、無料の実施を増やしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

フォーラム後の活動の紹介

フォーラム終了後、CoCoLoの会、吉原さんたちは逗子こども0円食堂の草柳さんと連携し、逗子0円ユニット(仮称)を組み、塾がお休みの月曜日を0円学習塾として開放し始めている。無料学習塾のため水光熱費・教材・講師料など費用はすべて、持ち出し・ボランティア・寄



0円学習塾は2017年4月からプレをスタート

付・助成金で運営しなければならない。今後逗子市の行っている学習支援に協力することも検討しているという。

【報告3】

子どもも、大人も自尊心を育てよう！

NPO 法人ごかんたいそう 代表理事 全田 和也さん

ごかんたいそうは、逗子市披露山の麓にある平屋古民家の園舎「ごかんのいえ」と、披露山の森の中にあるパーマカルチャー農園併設の新園舎「ごかんのもり」の2つの保育園を運営しています。子ども達は、自然、アート、まちのつながりに毎日ふれ、四季、暦に日々寄り添いながら、五感を目一杯使って野山を駆け巡って遊んでいます。私は、今の逗子や葉山の子どもたちは心の貧困の課題を抱えているのではないかと考えています。また、経済的な貧困と心の貧困は、必ずしもリンクしないと思っています。



報告する全田さん

私の家は、経済的にはあまり裕福ではありません。中学の息子はよく、家も古く綺麗でないので、学校で「貧乏、貧乏」とからかわれるそうですが、元気に学校に通っています。先日、息子がワニの口のように開いてしまったサッカーのスパイクを履いて走り回っていたので買いに行ったのですが、親に気を使って今、使えないような大きいスパイクを買おうとするのです。親としては少し情けないですが、家の家計を心配してくれる我が子をいとおしいとも感じました。同時に子どもは、経済的に余裕がないと感じていても、必ずしも心は貧困でないとも感じました。



一方、まちの子どもたちをみていると、心の貧困を感じる場合があります。例えば、まちのコンビニの前で、互いに遊ぶこともなく、スマホに熱中しているこどもたちをみると何かさまよっているのではないかと感じます。また最近、子どもと向きあっている親が、自尊心を失ってさまよっているように感じることもあります。



ごかんたいそう保育園

ります。攻撃的な意味ではもちろんありません。実は、僕自身もそういう悩める親だったのです。子供が小さい頃、子育てに行き詰り、さまよって、モンテッソーリ教育やシュタイナー教育等、ありとあらゆる教育メソッドを頼って探し回りました。しかし求める答えには出

あわなかったことを思い出します。その時は転職をして仕事にも行き詰っていて、私自身が一人の大人として自尊心をもてていなかったのも、子供と向き合うことにおいても、ありのままの自分で真正面に向き合えていなかったのかなと、振り返ってみると感じます。

今、こどもの暮らしの場づくりに取り組んで6年目になりますが、子ども自身が自発的に「育つ力」を大切にしています。現在の社会は、安全「だけ」第一で、子どものリスクに敏感になり過ぎています。安全第二で失敗してもいいと思いますし、むしろ、そういった挫折や苦悩、そこから乗り越える経験の積み重ねが将来のたくましさや自尊心につながると信じています。また今は、大人の社会が成果やスピードを重視し過ぎているように感じます。私は、成果も第二でいいと考えています。その瞬間を切り取った成果や結果から得られるものよりも、日々の悪戦苦闘の積み重ねにこそ、全ての学び、遊び、自分はこの世にうまれて、いまここにいるんだ！という自己肯定感・充実感が詰まっていると思っています。

最近、園で大縄跳びに挑戦するのに2週間かかった子どもがいました。最初は列に並ぶ勇気も持てなくて遠目にみていましたが、ある日についに勇気を振り絞って列にならんだ瞬間がありました。私は、みんなが100回飛べた！ことを自慢することよりも、その子が勇気を振り絞って列に並んだこの瞬間に大きく心を揺さぶられましたし、こういった表立った成果からはみえてこない、日常のささいな成長の機会を大人が摘み取ることをないようにしたいと思っています。

そして、実は、こういったことというのは、大人も同じだと思います。失敗してもまずチャレンジしてみることが重要と思ひまして、子どもだけでなく大人もチャレンジできる場づくりとしてコミュニティスペース「ごかんのえき」を始めました。

しかしこの様な場づくりを非営利で継続していくことは大変難しいと実感しています。すべてを一人ではできません。よろしければ、我々の活動やメッセージを伝えるためのフリーペーパーを置いてくださる場や、届けてくださるボランティア、運営費の支援など、是非、みなさんのご支援をお願いします。



コミュニティスペース
ごかんのえき：商店街に
ある

さがみにもある子どもの〈新しい貧困〉を知る



はじめます・・・



市民の報告



コーディネートも



2017 年 2 月 19 日ユニコムプラザさがみはら

主催：市民実行委員会 + さがみ生活クラブ + かながわ生き生き市民基金

【講演】

困難な状況を生きる子どもたちに 心のよりどころになる「場」を

社会福祉士・精神保健福祉士

湊 岳美さん

相模原市に住んで30年ほどになります。2012年から相模原市のスクールソーシャルワーカーとして働いています。スクールソーシャルワーカーにはまだ馴染みのない方が多いと思いますが、教育現場に福祉的な支援を根付かせるために文部科学省が2008年に導入した専門職です。今日はまず、スクールソーシャルワークが必要とされる社会的背景についてお話しし、次にスクールソーシャルワークとは何か、スクールソーシャルワーカーがどのような支援をしているのかをお話しします。そして最後に、支援を通して見えてきた課題への展望についてお話しします。



湊さん

1. スクールソーシャルワークが必要とされる社会的背景

（1）子どもたちの不登校

今日のテーマである貧困の問題をお話する前に、まず、スクールソーシャルワーカーが直面している不登校の課題についてお話しします。不登校は、文部科学省の定義によると、「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により登校しないあるいはしたくともできない状況にあるため年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的理由による者を除いたもの」となっています（資料1）。このうちスクールソーシャルワーカーが支援するのは、主に社会的要因・背景による不登校ケースです。一方、心理的、情緒的な理由で不登校の子どもたちへはスクールカウンセラーが支援することが多いです。年間登校日数は約200日ですから、30日はその約15%にあたるわけですが、欠席が年間29日以下の子どもはカウントされないため、潜在的にはたくさんいることが推測されます。

きっかけとしては、小学校では情緒的混乱、無気力、親子関係、中学校では、無気力、

不登校		
定義	何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるため年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的理由による者を除いたもの	
社会的背景	・「学びの場」としての学校の相対的な位置付けの変化 ・学校に対する保護者・児童生徒自身の意識の変化	
きっかけ	小学校	中学校
	・不安など情緒的混乱35.3% ・無気力23.3% ・親子関係をめぐる問題19.1%	・無気力26.2% ・不安など情緒的混乱26.2% ・いじめを除く友人関係をめぐる問題15.2%

平成27年8月不登校児童生徒への支援に関する中間報告 文部科学省

資料1 不登校

きっかけとしては、小学校では情緒的混乱、無気力、親子関係、中学校では、無気力、

情緒的混乱、友人関係などなっています(再掲 資料1)。
私が担当したケースでは、なんとなく行きたくない、だるい、また、ゲームに依存して昼夜逆転で学校に行けない、行きたくないというケースがあります。家庭の背景ではネグレクトが多く見受けられます。これは保護者が子どもを学校に送り出せない、生活リズムを整えられないなどです。また、親子が依存し合い

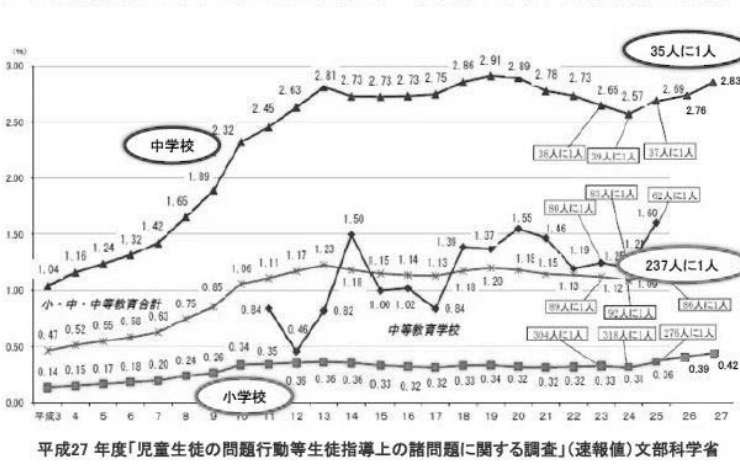
分離できないケースもあります。親が子どもを手放したくなかったり、逆に子どもが親を心配して離れられなかったりするために学校行けないこともあります。

次に、「不登校」を理由とする児童生徒の全国的な割合ですが、資料2にあるとおり、文部科学省の調査では上昇傾向にあります。小学校では237人に1人、中学校では35人に1人となっています。相模原市や神奈川県の数値はこれより少し悪いのですが、相模原市では色々な対策を講じ、27年度は減少しています。新聞によると、不登校の生徒は、57%は長期化・重度化し、理由も親の貧困など多様化しています。⁴

(2) 子どもたちへの虐待

次は児童虐待ですが、児童虐待防止法(平成12年施行)では、身体的虐待、ネグレクト、心理的虐待、性的虐待の4つに分類されます(資料3)。身体的虐待とは、殴る、蹴るなどの行為で、ネグレクトとは、保護の怠慢や拒否で、家に閉じ込める、食事を与えない、ひどく不潔にするなどです。心理的虐待とは、言葉による脅し、無視、子どもの目の前で家族に対して暴力をふるうなどです。性的虐待とは子どもへの性的行為、性的行為を見せるなどです。この中で、現在、最も多いのは心理的虐待です。性的虐待は表面化しにくいため、割合が大変小さくなっていると推測されます。全国の児童相談所における虐待

「不登校」を理由とする全児童生徒数に占める割合の推移



資料2 不登校を理由とする全児童生徒数に占める割合の推移

児童虐待防止法

第2条:保護者(親権者等で児童を現に監護する者)が18歳未満の児童について行う次の行為

身体的虐待	殴る、蹴る、投げ落とす、激しく揺さぶる、やけどを負わせる、溺れさせる、首を絞める、縄などにより一室に拘束する など
ネグレクト (保護の怠慢・拒否)	家に閉じ込める、食事を与えない、ひどく不潔にする、自動車の中に放置する、重い病気になっても病院に連れて行かない など
心理的虐待	言葉による脅し、無視、きょうだい間での差別的扱い、子どもの目の前で家族に対して暴力をふるう(DV) など
性的虐待	子どもへの性的行為、性的行為を見せる、性器を触る又は触らせる、ポルノグラフィの被写体にする など

資料3 児童虐待防止法

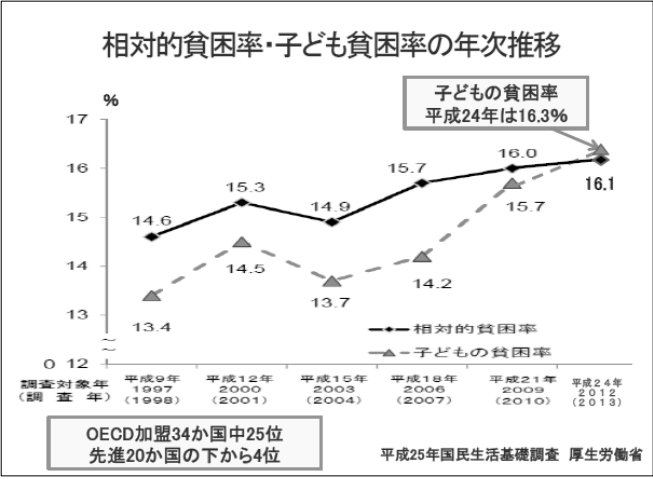
⁴ 朝日新聞 2016年10月28日

相談対応件数は年々増加し、平成27年度は10万件を超えています⁵。児童虐待相談対応件数が増えている要因としては、児童虐待に対する市民の関心が高まり、虐待が疑われる段階においても通報されるようになったことや、児童が同居する家庭において配偶者に対する暴力があった場合の警察からの通報により、心理的虐待の件数が増加していることなどがあげられています。

（3）子どもたちの貧困

次は、子どもの貧困の状況です。
子どもの貧困率⁶は、16.3%で6人に1人の子どもが貧困の状態⁷にあります（資料4）。2人世帯ならば173万円以下、3人世帯ならば211万円以下の等価可処分所得で暮らす世帯の子どもたちが、貧困状態に置かれていることとなります。ひとり親家庭においては、54.6%（平成24年）が貧困状態にあり、特に母子家庭の大変厳しい暮らしの状況が窺えます（資料5）。

子どもの貧困の解決には、物理的、経済的支援だけでなく、心のケア、人との絆の回復の重要性も指摘されています。⁸



資料4 対的貧困率・子どもの貧困率の年次推移

ひとり親家庭の現状		
	母子世帯	父子世帯
世帯数	123.8万世帯 (ひとり親世帯の約85%) (25年間で1.5倍)	22.3万世帯 (ひとり親世帯の約15%) (25年間で1.3倍)
平均年間 就労収入	181万円 正規 270万円 非正規 125万円	360万円 正規 426万円 非正規 175万円
生活保護 受給率	14.4%	8.0%
全世帯の保護率は1.71%		
※世帯数には母子または父子以外の同居者がいる世帯を含む		
平成23年度全国母子世帯等調査 厚生労働省		

資料5 ひとり親家庭の現状

⁵ 平成27年度速報値 103、260件（平成28年8月4日 厚生労働省発表）
⁶ 相対的貧困率：一定基準（貧困線）を下回る等価可処分所得しか得ていない者の割合をいう。貧困線とは、等価可処分所得（世帯の収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分の額をいう。貧困線以下の世帯に属する子どもの割合が子どもの相対的貧困率となる。これらの算出方法は、OECD（経済協力開発機構）の作成基準に基づいている
⁷ 平成25年国民生活基礎調査 厚生労働省
⁸ 朝日新聞 2017年3月12日

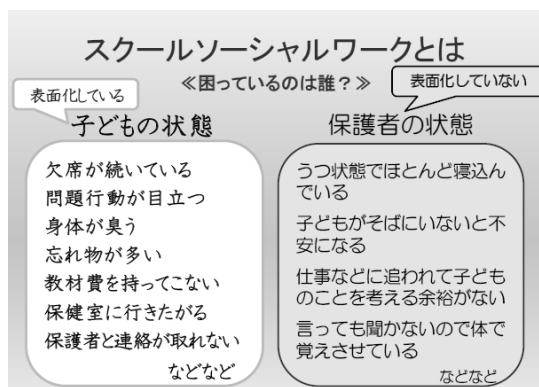
2. スクールソーシャルワークとは

(1) 誰をどのように支援するのか

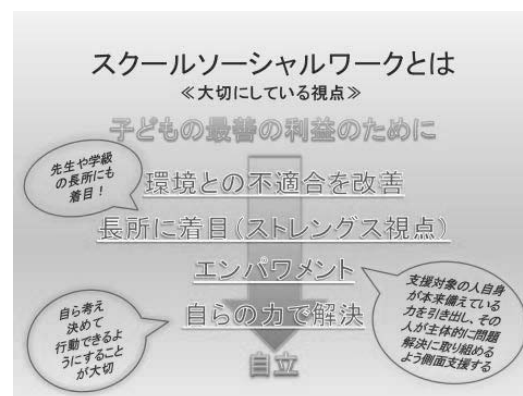
学校からの依頼で支援を開始するスクールソーシャルワークの場合、まずは誰が何に困っているのかを明らかにしていく必要があります。学校において表面化している子どもの状況は、**資料6**のように、欠席が続いている、問題行動が目立つ、身体が臭う、忘れ物が多い、教材費を持ってこない、保健室に行きたがる、保護者と連絡が取れないなどなど、保護者が心身の不調で寝込んでいる、子どもがそばにいないと不安になる、仕事などに追われて子どものことを考える余裕がないなどという状態は、学校からは見えません。また、学校はそのような状況にある子どもや保護者の思いを知ることは難しい場合が多く、どう対応してよいのか困っています。保護者はと言うと自信を無くしていたりパワーのない状態だったりすることが多く、子どもは、自分の置かれている状況を「ふつう」だと思い、課題を課題と認識することすらできないこともあります。ですからスクールソーシャルワークにおける支援の対象者は、究極的には子どもですが、困っている学校も困った状況に置かれている保護者も支援の対象となります。

スクールソーシャルワークで大切にしている視点は、**資料7**のとおりで、子どもの最善の利益のために、家庭や地域、学校等の環境との不適合を改善します。その際、子どもの長所に着目します。どの子どもにも長所があります。長所に着目すると解決の糸口が見えてきます。これをストレングス視点と呼びます。次に支援対象の人自身が本来備えている力を引き出し、その人が主体的に問題解決に取り組めるように側面から支援していきます。これをエンパワメントと呼びます。そうすることで自ら考え、決めて行動し、自立できるようになっていきます。

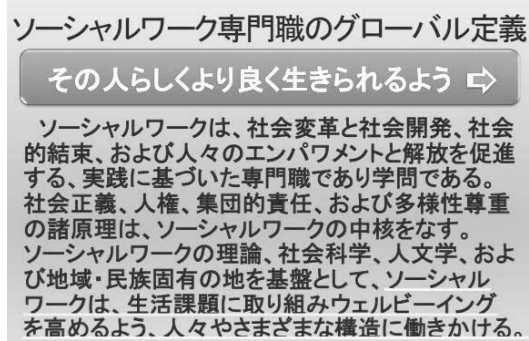
ソーシャルワークは**資料8**のとおり世界的に定義付けられています。また、日本における



資料6 スクールソーシャルワークとは
《困っているのは誰？》



資料7 大切にしている視点



資料8 専門職のグローバル定義

スクールソーシャルワークは、文部科学省により資料9、資料10のように定義付けられています。ひと言でいうなら、「その人らしくより良く生きられるよう、さまざまな環境に働き掛けて、子どもと家庭、学校を支援する」と言えると思います。

(2) スクールソーシャルワークの主な機能

スクールソーシャルワークの主な機能は、早期発見、代弁、調整、情報提供、仲介(資料11)であると考えます。この5つの機能を発揮して支援にあたっています。

〈早期発見〉は中々難しいですが、非常に重要です。先ほど不登校が長期化しているとお話ししましたが、義務教育である小中学校ではすべての子どもの把握が可能なので、学校に福祉の視点を入れることで、課題の早期発見が可能となります。実際に教育委員会では、各学校から欠席等の状況について毎月報告を受けて、早期発見に努めています。次に〈代弁〉ですが、子どもや保護者の意見を学校に表明することです。これはあたり前のように見えますが、子どもや保護者が学校から誤解されている場合などには必要となります。〈調整〉は学校や関係機関との関係を調整することです。関係機関とは、児童相談所や行政、その他の支援機関などです。これらの機関と学校は、福祉的、行政的、また教育的な視点で調整が必要となる場合があります。〈情報提供〉は、必要な情報を必要と思われる方に提供することです。〈仲介〉とは必要な社会資源、行政や支援組織などに支援の対象者をつなげることです。

(3) スクールソーシャルワーカーの活動

スクールソーシャルワークとは

さまざまな環境に働き掛けて ⇨

いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待など生徒指導上の課題に対応するため、教育分野に関する知識に加えて、社会福祉等の専門的な知識・技術を用いて、児童生徒の置かれたさまざまな環境に働きかけて支援を行う、スクールソーシャルワーカーを配置し、教育相談体制を整備する。

平成21年スクールソーシャルワーカー活用事業実施要領 文部科学省

資料9 スクールソーシャルワークとは

スクールソーシャルワークとは

子どもと家庭、学校を支援する

1. 問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働きかけ
2. 関係機関等とのネットワークの構築、連携・調整
3. 学校内におけるチーム体制の構築、支援
4. 保護者、教職員等に対する支援・相談・情報提供
5. 教職員等への研修活動

平成21年スクールソーシャルワーカー活用事業実施要領 文部科学省

資料10 スクールソーシャルワークとは

スクールソーシャルワークとは

《主な機能》

早期発見 代弁 調整 情報提供 仲介

早期発見…全数把握が可能な学校に福祉の視点を入れることで、課題の早期発見が可能になる

代弁…子どもや保護者の要望や意見等を学校に表明する

調整…子どもまたは保護者と学校間の関係を調整する、必要に応じて関係機関の役割を調整する

情報提供…子ども、保護者、学校等に必要な情報を提供する

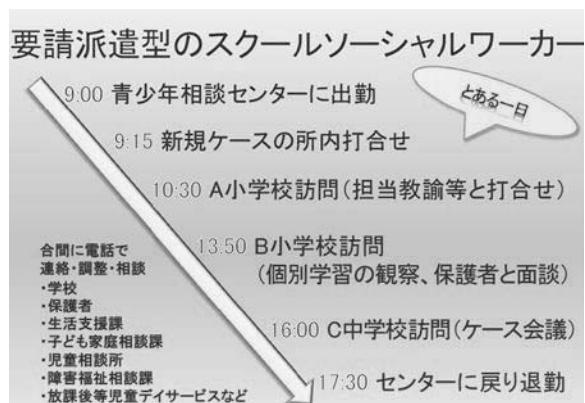
仲介…子どもや保護者等を必要な社会資源につなぐ

資料11 主な機能

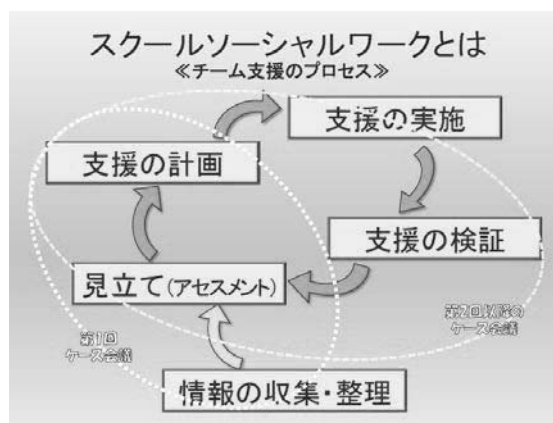
スクールソーシャルワーカーの活動形態は、全国的に学校からの要請に基づき活動を行う要請派遣型が多くなっています。また雇用形態は、全国的にみると非常勤で週1日から4日勤務が多く、常勤採用の数は大変少ないようです。そのため身分は安定していないのが現実です。幾つかの自治体を掛け持ちして働いているスクールソーシャルワーカーもいます。相模原市の場合、週4日勤務の非常勤職ですが、待遇的には恵まれている方です。

私のある日の勤務は、**資料12**にある様に、朝9時に青少年相談センターに出勤し、朝の打ち合わせを行い、その後、小学校や中学校を3校訪問して、担当先生と打ち合わせたり、個別学習の観察、保護者との面談、ケース会議への出席などです。また、その合間に学校や保護者、関係機関と電話で連絡・調整・相談などを行います。

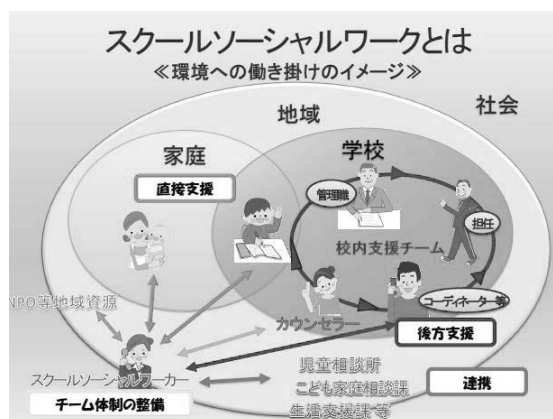
支援は一対一でなくチームで行うことを基本としています。チーム支援のプロセスは**資料13**のとおりです。まず、第1回のケース会議では、①情報の収集・整理を行い、②ケースの見立て（アセスメント）を行いその原因を探り、支援の内容や方法を検討します。③支援の計画を作成して支援の役割分担を行います。そして、その支援計画を実施します。2回目以降のケース会議では、実際に行った支援の評価を行い、それを踏まえて必要に応じて計画を見直します。学校が主体的に支援を行えるよう、スクールソーシャルワーカーはまず、チーム体制を整備します。校内支援チームがすでに動いている学校もありますが、担任の先生が孤軍奮闘していることがよくあります。校内支援チームは、担任、支援教育コーディネーターと呼ばれている窓口の先生、学年主任、管理職、この他にも前担任や養護教諭等ケースに応じたメンバーで構成されます。チ



資料 12 要請派遣型



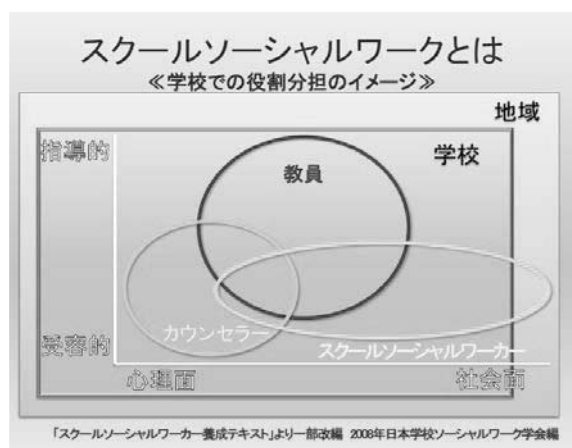
資料 13 チーム支援のプロセス



資料 14 環境への働きかけ

ーム体制が整ったら、スクールソーシャルワーカーはチーム支援が効果的に行われるよう、学校を「後方支援」します。次に、必要に応じて児童相談所をはじめとする福祉機関や行政機関、さまざまな社会資源等との「連携」を促進します。更に、ケース会議での支援計画に基づき、家庭訪問や面談等を通して子ども本人や保護者に「直接支援」を行う場合もあります。

スクールソーシャルワーカーとスクールカウンセラーはよく混同されますが、役割分担のイメージは資料15の様になります。教員は指導的な立場です。カウンセラーは心理的な手法で受容的に関わります。一方、スクールソーシャルワーカーは支援対象者に対しては受容的に関わりつつ、社会福祉的な手法で学校の枠に留まらず、環境に働きかける姿勢が特徴と言えます。3つの輪は重なっていますので、重なっている部分で協力し合い、重なっていない部分でそれぞれの専門性を発揮できればより良いチーム支援ができると思います。



資料 15 学校での役割分担

私が、最初の3年間に担当したケースを整理してみますと不登校・不登校関連が、85%となっていますが、この傾向は強まってきています。そのうち、子ども自身に心身の健康や知的・発達障害等の課題があると思われるケースが過半数となっています。家庭の環境としては、児童虐待、生活困窮、ひとり親家庭などの状況が重複していることが多いです。更に、見えない家庭の背景として、保護者自身が子どもの頃虐待を受けて育った、不登校であった、生活困窮の中で育った、親が何らかの病気を患っていた、非常に若くして出産した、DVを受けてきたという様な大変な状況が多く存在しています。支援を必要とする子どもとその家庭には、この様な状況があることをぜひ、知っておいていただきたいと思います。

3. まとめ ～ケースを通して見えてきた課題への展望

最後に私がケースを通して見えてきた課題への展望をお話しします。まず、これまでお話ししてきた様に、複雑な状況にあり孤立する子ども、保護者に対して「居場所」を提供していくことが求められていると思います。子どもや保護者の多くは、学校や病院など必要最低限の機関の他には誰ともつながっていません。ある子どもにとって、たとえ学校があまり居心地のよい場所でなくても地域に居場所があれば、家族以外の人とつながることができます。その居場所の中で、保護者や学校の先生以外の方に認められることで、生きていいんだという自己肯定感が育まれ、親子が密着した家庭内での役割だけでなく、

地域や社会の中で役割を持つことで、自分が必要とされていることを実感し自信を取り戻せます。また、子育てや人間関係に自信を無くしている保護者や、たとえば担任の先生からの連絡に、何かいけないことしたのかしらと怯えてしまうような保護者がいたら、そんな保護者の声をただただ聞いてくれる人が身近にいれば保護者は精神的に安定し、子どもも安定していくと思うのです。

次に、複雑な状況にあり孤立している子どもたちに対して、目標にできる大人モデルを提供していくことが求められています。身近に健全な大人モデルがあると、将来に対する希望が生まれ、それを目標に自立への道を歩むことができます。親の働く姿を見たことのない子どもの中には、働く自分をイメージできなかつたり、そのために進路に希望を持てなかつたりする子どももいます。そんな子どもたちが、年齢の近い高校生や大学生などと接することで、進路決めなどで不安の高まる思春期を自分らしく過ごせる可能性が広がっていきます。

最後に、私たち自身が「こんな大人になりたい」、「こんな社会にしたい」と子ども達が思えるような生き方をし、希望を見いだせる社会をつくっていくことが大切だと思っています。私たちスクールソーシャルワーカーは微力で限界があります。ぜひ、皆さんと一緒にその様な社会を作りだしていきたいと思います。皆さまのご活躍を期待しています。今日はご清聴ありがとうございました。

【資料出典】

- 資料1 不登校 「平成27年8月不登校児童生徒への支援に関する中間報告」文科省
- 資料2 「不登校」を理由とする全児童生徒数に占める割合の推移 「平成27年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査（速報値）」文科省
- 資料3 児童虐待防止法
- 資料4 相対的貧困率・子どもの貧困率の年次推移「平成25年国民生活基礎調査」厚労省
- 資料5 ひとり親家庭の現状「平成23年度全国母子世帯等調査」厚労省
- 資料6 スクールソーシャルワークとは《困っているのは誰？》
- 資料7 スクールソーシャルワークとは《大切にしている視点》
- 資料8 ソーシャルワーク専門職のグローバル定義 「2014年7月メルボルン 国際ソーシャルワーカー連盟・国際ソーシャルワーク学校連盟」
- 資料9 スクールソーシャルワークとは「平成21年スクールソーシャルワーカー活用事業実施要領」文科省
- 資料10 スクールソーシャルワークとは「平成21年スクールソーシャルワーカー活用事業実施要領」文科省
- 資料11 スクールソーシャルワークとは～主な機能～
- 資料12 要請派遣型のスクールソーシャルワーカー
- 資料13 スクールソーシャルワークとは～チーム支援のプロセス～
- 資料14 スクールソーシャルワークとは～環境への働きかけのイメージ～
- 資料15 スクールソーシャルワークとは～役割分担イメージ 「スクールソーシャルワーカー養成テキスト」より一部改編 2008年日本学校ソーシャルワーク学会編

【報告 1】

「あいおい」みんなの食堂の活動

「あいおい」みんなの食堂実行委員会

代表 佐藤純子さん

地域で「あいおい」みんなの食堂を生活クラブの活動の一環として 2016 年 5 月からスタートしました。その設立の経緯、取り組みの状況やその中で感じたことについてお話しします。

子どもたちが貧困の状況におかれていることは見えにくいですが、生活クラブの組合員は子育て中の人が多く、小学校低学年の子どもが保育園のお迎えに行っている姿をみたり、公園で子どもを遊ばせている時に、居合わせた小学生の子どもに「パン買って」と言われたり、自分たちの暮らしの中で社会状況の変化を感じつつありました。

更に、私たちが普段活動の拠点にしている相模原市中央区の相模原センター付近の貧困率が高いことが分かりました。そんな状況の中で、私たち組合員で何ができるのかを見学や講演会などを行い考えることにしました。

まず、茅ヶ崎市内で地域の居場所となっている「さいとうさんち」で行われている「ほんそん子ども食堂」を見学したり、池袋で「あさやけ子ども食堂」を立ち上げた「豊島 WAKUWAKU ネットワーク」の栗林知絵子さんを招いて講演会を実施するなど、見学会や講演会を通じて、子ども食堂の運営、広報、資金、居場所の意義などについて学びました。特に、栗原さんの講演の中で、「子どもたちに寄り添うだけでいい。居場所があればいい、そういう居場所があって信頼できる大人に出会えた時に、その子どもが変わる…」という言葉が「やりたいけれど私たちではできない」と思う私たちを励ましてくれました。

勇気を出して生活クラブの地域の総会に提案し承認を得て食堂プロジェクトを立ち上げました。自治会、社会福祉協議会、市民活動サポートセンターからのアドバイスを受けたり、食材は、生活クラブでつながりあった生産者の方、近隣のパン屋さん、フードバンク、その他寄付などから提供を受けました。場所は、生活ク



佐藤さん



第1回目のチラシ



食堂運営スタッフのみなさん

ラブ相模原センター組合員スペースを活用できました。開催日は、月2回の金曜日の夕方で大人300円、子ども100円で、困っている人は相談くださいとしましたが、現在のところ相談はありません。1回に大体30名ぐらいが参加し、高齢者の一人暮らしの方、パパの帰りが遅い乳児を抱えたママ、集団で参加する小学生なども参加しています。



そのうち問題がおきてきました。集団で参加する小学生が卑猥な言葉を大声で連発し、注意しても会話も成立しないのです。迷惑行為を行うとして排除しようか、とも思いましたが、「ほんそん子ども食堂」の早川仁美さんからアドバイスを受け、「あいおい」みんなの食堂の意義についてグループワークを行いました。思っていたとおりのグループワークにはなりませんが、学校で思うことが先生に伝わらないもどかしさを子どもたちが迷惑行為として表現していることに気づきました。その後は、段々と子どもともコミュニケーションがとれるようになり、気が付くと、子どもたちから以前は「おばさん」と呼ばれていたのが、今は「佐藤さん」に変わっていました。

これまでの取り組みで感じていることは、食堂では自然に会話が生まれ、互いを気遣いあう関係が生まれてきていることです。また、食などの貧困問題への取り組みとして食堂を立ち上げましたが、自分たちの居場所として、参加者全員で育てていく場であり、人間関係の弱さ、コミュニケーション不足も課題で、「新しい貧困」を解決する場であるとも感じています。

【報告2】

無料学習塾 相模原みのり塾の活動

相模原みのり塾代表

小布施実穂子さん

今日は、最初に無料学習塾の価値を確認して、次に「相模原みのり塾」の概要と活動を通して見えてきたことについてお話しします。皆さんは、「無料学習塾」について、どのようなイメージを持っていますか？ ①有料学習塾の月謝がいらぬ版、②講師に給料が支払えないのでボランティアでやっている、または、③有料学習塾に通え



小布施さん

ない家計の苦しい世帯に塾の費用を補助すれば必要ない、など色々なイメージをお持ちかと思います。「無料学習塾」は、家計が苦しく有料学習塾に通うことが難しい子どもたちが通っていることは確かですが、それだけではありません。無料学習塾の根底には、子どもたちの学びを助けないという「想い」があります。また、かわいそうだからやっているのではなく、未来を担う子どもたちへの投資として行っていると思います。無料学習塾に講師として参加してくれる若者たちもこの様な考えで参加しています。講師として参加する方は増加しており、市民の温かさを感じています。

活動実績：

- ①定例授業（毎週日曜日午後/3コマ）
- ②夏期自習室・冬期自習室（夏期20回、冬期8回）
- ③試験前自習室（2学期に8回）
- ④受験生対象直前集中講座12/23-1/7 9日間
- ⑤受験生対象面接特訓 1/22-2/12 4日間

無料学習塾「相模原みのり塾」は、2016年5月からスタートし、今春、第1回の卒業生を送りだしました。2017年3月現在、生徒数は中学生18名で毎週日曜日の午後に実施しています。しかし、日曜日では部活を行っている子どもは参加できないので平日に実施することが課題となっています。指導スタイルは、学力の個人差を考え、一対一授業を基本に行っています。ボランティア講師登録は25名です。毎週日曜参加してくれる学生も多く大変ありがたいです。毎週日曜日の他に、夏期、冬期、試験前の自習室開催、受験生対象講座を開催しています。場所は、子どもたちが参加しやすいように繁華街を選定した方が良いとのアドバイスもあり、橋本駅前の橋本公民館でほとんど実施しています。橋本公民館は、商業施設の中にあるので子どもたちが塾に来ることが目立ちにくく、子どもたちも安心して来てくれています（資料1～2）。大正解だと思っています。子どもたちや家庭への広報は、チラシを公民館等での掲示やタウンニュースへの掲載や口コミが有効です。



資料1 無料塾「相模原みのり塾」定例授業



資料2 無料塾「相模原みのり塾」冬期自習室

塾に来ている子どもたちは、まわりの子どもたちと同じで、見た目では貧困状態にある子どもたちとはわかりません。頑張っているように感じています。素直でおとなしく、昔の不良のような子どもはいませんが、自分に自信のない子どもが多いです。家庭状況は、ほとんどの子どもが母子家庭で日々の生活がやっとの状況にあります。そんな子どもたちに対して私たち大人がやっていくことは何でしょうか。子どもの貧困は、親の貧困であり、その責任は親の責任、自己責任であるとの声もありますが、親を責めても子どもの環境はかわりません。私はできる大人が少しずつ何かやっていくことが重要だと思います。今の時代は少子高齢社会ですので、ある意味で大人の方が子どもより多

く、チャンスなのではないでしょうか。子どもの周りにいるたくさんの大人が、もし、自分がその子どもの立場だったらどうして欲しいかを考えて、声をかけていけばいいのではないのでしょうか。まず、大人が声をかけていくことが重要であると思います。そうすることによって、徐々に社会が変わっていくと思います。そんな思いで私は、相模原みのり塾をやっています。

【報告 3】

フードバンク ワンエイドの活動

NPO 法人ワンエイド 理事長 松本 篤さん

今日は、私たちの団体のあゆみ、フードバンクの取組み、今後の取組についてお話します。ワンエイドは、座間市で 2009 年に要支援、要介護の方、障がい者、高齢者などの移動を車でサポートする福祉有償サービスを始めました。その後、利用者からのニーズに応えた生活サポートや、住み替えたくてもできない高齢者に対して住まいをサポートする相談を始めました。この事業のために理事の一人が不動産屋を立ちあげました。



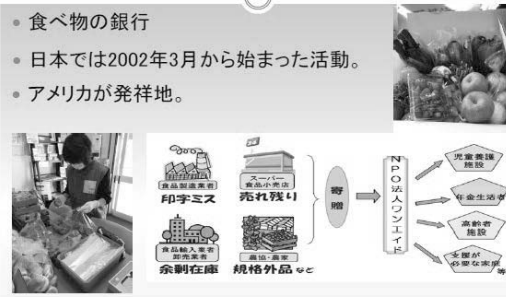
発表する松本さん

住まいに困っている人は、食べ物も買えないで困っている人も多く、何とか無料の食料を配ることはできないかと思い 2015 年にフードバンクを立ち上げました。フードバンクとは、アメリカが発祥地で、日本では 2002 年から始まりました。企業から規格外品、売れ残り、余剰在庫などを寄贈してもらい、施設、貧困家庭、子ども食堂などに配る仕組みです。フードバンクは三方良しの活動です。企業にとっては在庫処理が

行える。環境にとっては廃棄物が少なくなり焼却物が減り CO₂が削減する。困っている人には生活が改善される。そんな大変良い仕組みだと思っています。

私たちのフードバンクは配達をせずに、取りに来た人に食料をお渡ししています。座間市以外の方でも来られた方にはお渡ししています(資料 1)。当初は、高齢者を支援している団体なので対象を限定しようかと思いましたが、広く横に支援していくこととし、子ども、困

フードバンクって何？



資料 1 フードバンクって何？

っている人は誰でも対象としました。また、フードバンクから支援を受けていることによって、子どもがいじめの対象になってはまずいので、主婦のおせっかい的感覚で、小さな SOS カードを作ってポストに入れたり、公民館や児童館に置いて広報を行っています。このサイズは、こどもが隠れてポケットに入れて持ち帰りやすいサイズです。



不動産業を立ち上げた
理事の石塚恵さん

フードバンクを行いながら貧困はやはり見えにくいと感じています。食料を取りに来る子どもたちはスマホを持ち、ブランド銘のあるバッグを持ってくる人もいます。そういう人でも学校の先生から「うちの生徒で満足に食事をとれていないようなので食料をもらえないか」と照会があったりします。お腹を空かしていることによって暴力をふるってしまったたり、勉強に集中できなくなっていると聞いています。



フードバンクののぼりが翻る
ワンエイドの入り口

また、親とうまくいっていないため、食事を満足に取れず、子どもが直接、食料を取りに来ることもあります。具体的な事例としては、父親と二人暮らしの 15 歳の少年が、父親が家に帰ってこなくなり、自分で児童相談所に連絡し、相談員、学校の先生と少年の 3 人で当団体に食料を取りにきたことがあります。大人を信用できなくなり、一人暮らしをしたいとのことでした。

食料支援を行いつつ、住まいの相談支援も行っています。食料支援を行った 21 歳の女性は、母子家庭で妊娠し、子どもの世話や収入の問題で困っている状況だったので、市役所のケースワーカー、社協、支援団体と連携して対応しました。対面で食料を渡すことで、相手の状況が分かり、福祉制度につなぐことができます。このような事例を通じて、自分たちの団体だけでは困っている人を救うことはできない、地域の団体や公的機関とも連携していくことが重要と考えています。

子どもたちがどんな状況にあっても夢が持てる社会を作っていかなければいけないと考えています。今後は、更にフードバンクのことを知ってもらい多くの人を支援していきたい、更に、シェルター事業も立ち上げていきたいと思っています。

【報告 4】

さがみエリアのコミュニティを探ろう



さがみ生活クラブ常務理事 矢野 克子さん

さがみ生活クラブの組合員が、相模原市・座間市・海老名市・伊勢原市・厚木市・大和市・綾瀬市を対象に市民で実施する子どもの貧困を意識した活動調査を行いました。短期間の調査で十分でないところもありますが、地域で相互に連携して活動していくことが重要だと思いますので、参考にして活動を始めていただければと思います。また不足情報は皆さんからの提供をお待ちします。



(★はフォーラムで登壇した団体)

● 相模原市 子ども食堂 9 学習支援 4 居場所 1 フードバンク 1

※中学校給食：弁当併用 ※生保・困窮の中高生の学習支援は各区で対応。

名称	相模原みのり塾 (無料学習塾)★
種類	地域のコミュニティ 子ども食堂 居場所 <u>学習支援</u> フードバンク
連絡先住所	050-5307-2233 minorijyuku@gmail.com 小布施

名称	相模原無料塾「ひばり学校」(無料学習塾)
種類	地域のコミュニティ 子ども食堂 居場所 <u>学習支援</u> フードバンク
連絡先住所	相模原市南区若松 6-21-15 エクシブ若松 201 042-702-9533

名称	W I S H
種類	地域のコミュニティ 子ども食堂 居場所 <u>学習支援</u> <u>フードバンク</u>
連絡先住所	神奈川県相模原市南区磯部 080-3472-5859

名称	おださがの子ども食堂 南台子ども食堂
種類	地域のコミュニティ <u>子ども食堂</u> 居場所 学習支援 フードバンク
連絡先住所	南区南台 6-17-18 (キッチン唯利) 普段は居酒屋兼食堂

名称	「あいおい」みんなの食堂★
種類	地域のコミュニティ <u>子ども食堂</u> 居場所 学習支援 フードバンク
連絡先住所	中央区相生 3-9-23 生活クラブ相模原センター2階 aioi.kodomosyhokudou2016@gmail.com

名称	ノヴェーニユ こども食堂・こども寺子屋
種類	地域のコミュニティ <u>子ども食堂</u> 居場所 <u>学習支援</u> フードバンク
連絡先住所	NPO 法人 アフリカヘリティジコミュニティ 中央区 5-21-3 ノベニューホール 2 階

名称	こども食堂ぶらっと上溝			
種類	地域のコミュニティ	子ども食堂	居場所	学習支援 フードバンク
連絡先住所	【電話】042・762・0079 社協の協力			

名称	相南ハッピー子ども食堂			
種類	地域のコミュニティ	子ども食堂	居場所	学習支援 フードバンク
連絡先住所	南区相南 4-3-27			

名称	こども食堂 p e c o			
種類	地域のコミュニティ	子ども食堂	居場所	学習支援 フードバンク
連絡先住所	相模大野南地区 南区保健福祉センター 学生のチカラ 大野美奈無地域活性化事業 交付金活用 peco.sagamihara@gmail.com			

名称	だがしあたーイエスマン			
種類	地域のコミュニティ	子ども食堂	居場所	学習支援 フードバンク
連絡先住所	相模台 2-1-8 小田急相模原 6 分			

名称	けやき子ども食堂			
種類	地域のコミュニティ	子ども食堂	居場所	学習支援 フードバンク
連絡先住所	相模台団地内 神奈川県住宅供給公社事務所			

名称	お母さんたちのしゃべり場 in 小田急相模原			
種類	地域のコミュニティ	子ども食堂	居場所	学習支援 フードバンク
連絡先住所	相模原市南区南台 6-4-2 三・一教会 ほっとスープ			

● 座間市 子ども食堂 4 学習支援 1 居場所 1 フードバンク 1 就労支援 1

※ 中学校給食 選択式(弁当併用)検討中 ※生保・困窮の小中高生の学習支援

※ 学習支援 生保・困窮家庭の中学生対象

名称	NPO ワンエイド ★			
種類	地域のコミュニティ	子ども食堂	居場所	学習支援 フードバンク
連絡先住所	座間市相模が丘 4-42-20 046-258-0002 石塚恵			

名称	おださがこどもネット			
種類	地域のコミュニティ	子ども食堂	居場所	学習支援 フードバンク
連絡先住所	〒2520001 座間市相模が丘 5 丁目 5-6 ソレイユ東海 1F (座間事務所)			

名称	D&C 子ども食堂			
種類	地域のコミュニティ	子ども食堂	居場所	学習支援 フードバンク
連絡先住所	046-266-0047			

名称	子育てサロン「ぼっけ」			
種類	地域のコミュニティ	子ども食堂	居場所	学習支援 フードバンク
連絡先住所	07069746646 active_mama_zama@yahoo.co.jp 月、水、金 10:00～16:00 Facebook			

名称	フリースペースあすなろ			
----	-------------	--	--	--

種類	地域のコミュニティ 子ども食堂 居場所 学習支援 フードバンク ※不登校や諸事情で学習できなかった者への学習支援
連絡先住所	座間市四ツ谷 718-1 046-254-2005

名称	チャチャ
種類	地域のコミュニティ 子ども食堂 居場所 学習支援 フードバンク 就労支援
連絡先住所	座間市相模が丘 5-43-5 けやきの広場内 042-744-2325

名称	座間子ども食堂
種類	地域のコミュニティ 子ども食堂 居場所 学習支援 フードバンク
連絡先住所	ふれあい会館 046-266-0047

● **海老名市** 子ども食堂 1 居場所 1 コミュニティ 1

※中学校 弁当併用 ※学習支援 未実施

名称	お助けたい
種類	地域のコミュニティ 子ども食堂 居場所 学習支援 フードバンク
連絡先住所	海老名市高齢介護課高齢者支援係 さつき町 対象 75歳以上の一人暮らし&高齢者世 046-235-4950

名称	つくってあそぼう 対象 小学生
種類	地域のコミュニティ 子ども食堂 居場所 学習支援 フードバンク
連絡先住所	海老名市市民協働部地域づくり課 046-235-4795

名称	みんなの食堂
種類	地域のコミュニティ 子ども食堂 居場所 学習支援 フードバンク
連絡先住所	代表 大島正江 (月1回)

● **伊勢原市** 子ども食堂 1 学習支援 1 地域コミュニティ 2

※中学校ミル給食のみ ※学習支援：生保の中学生対象

名称	いせはらみらい・クルリン こども食堂
種類	地域のコミュニティ 子ども食堂 居場所 学習支援 フードバンク
連絡先住所	NPO 法人 地域福祉を考える会 子育て支援・みらい 0463-95-6665

名称	だいろうく コミュニティー広場 来るりん
種類	地域のコミュニティ 子ども食堂 居場所 学習支援 フードバンク
連絡先住所	伊勢原市伊勢原一丁目 3-10

名称	ふくじゅ
種類	地域のコミュニティ 子ども食堂 居場所 学習支援 フードバンク
連絡先住所	伊勢原市伊勢原一丁目 20-6

名称	地域福祉を考える会 学習サポートみらい・つなぐ
種類	地域のコミュニティ 子ども食堂 居場所 学習支援 フードバンク
連絡先住所	いせはら市民活動サポートセンター 0463・95・6665 (午前9時から午後4時半)

● **厚木市** 子ども食堂 2 学習支援 1

※小中学校 完全給食実施 ※学習支援 にじいろ教室 生保・困窮の中学生対象

名称	あつぎこども食堂			
種類	地域のコミュニティ	子ども食堂	居場所	学習支援 フードバンク
連絡先住所	市民団体ASHL 同団体・葉山さん【携帯電話】080・3581・5483 アミューズ			

名称	厚木 YMCA こども食堂			
種類	地域のコミュニティ	子ども食堂	居場所	学習支援 フードバンク
連絡先住所	YMCA 健康福祉専門学校 TOPICS こども総合福祉スポーツコース 3 年生の「健康教育」の授業の中で企画し、学生たちが募集、運営			

名称	土曜てらこや（どてら）			
種類	地域のコミュニティ	子ども食堂	居場所	学習支援 フードバンク
連絡先住所	非営利組織「小さな森の学校」野田 由栄子 Email:ebettsu.genki@gmail.com			

● 大和市 子ども食堂 5 学習支援 1 居場所 5 地域コミュニティ 1

※ 小・中学完全給食実施 ※ 学習支援：放課後寺子屋やまと

※ 2017 年から小学生対象の子ども食堂に立ち上げ時 10 万円と開催回数に応じて 17,000 円の補助金。月 4 回年 48 回を上限とする。17 年度は 3 団体

名称	特定非営利活動法人サポートハウス ワン・ピース北 「たまめし食堂」			
種類	地域のコミュニティ	子ども食堂	居場所	学習支援 フードバンク
連絡先住所	〒242-0001 神奈川県大和市下鶴間 2777-5 コンフォール鶴間 TEL: 046-283-2644 http://kunikane.kanagawanet.jp/blog/2016/09/04/914/			

名称	なないろ畑子ども食堂			
種類	地域のコミュニティ	子ども食堂	居場所	学習支援 フードバンク
わかれば 連絡先住所	〒242-0007 神奈川県大和市中中央林間 2-16-45 TEL: 046-283-0339 ※子ども食堂を予定していたが、市の助成金が取れず、居場所としてスタート			

名称	社会福祉法人いきいき福祉会 ラポール上和田 共生型コミュニティ「ひだまり」			
種類	地域のコミュニティ	子ども食堂	居場所	学習支援 フードバンク
わかれば 連絡先住所	〒242-0014 大和市上和田 2412 上和田団地 2-11-107 号 TEL: 046-201-1670 ※ http://rapport.or.jp/service/kamiwada/index.html に詳細あり。			

名称	子ども食堂			
種類	地域のコミュニティ	子ども食堂	居場所	学習支援 フードバンク
連絡先住所	毎週木曜日 子供 100 円 大人 300 円 MNPO 法人 地域家族しんちゃんハウス 大和市南林間 7-1-15			

名称	子ども食堂ハルテ			
種類	地域のコミュニティ	子ども食堂	居場所	学習支援 フードバンク
わかれば 連絡先住所	社会福祉法人県央福祉会 大和市西鶴間 4-12-33 カフェハルテ 046-279-6700 (ぼらーの上和田)			

名称	「わにわに食堂」			
種類	地域のコミュニティ	子ども食堂	居場所	学習支援 フードバンク
連絡先住所	大和市上草柳 176-2 さくらの森・親子サポートネット 046-259-5206(さくらの森保育園)			

名称	がんばろう カフェ ラボ
種類	地域のコミュニティ 子ども食堂 <u>居場所</u> 学習支援 フードバンク
連絡先住所	黒木啓之 合同会社 がんばろう 南林間 6 の 7 の 4。046-244-0343

名称	放課後寺子屋やまと
種類	地域のコミュニティ 子ども食堂 居場所 <u>学習支援</u> フードバンク
連絡先住所	大和市の全市立小学校で実施 市教育委員会指導室指導担当 2605210

名称	オレンジカフェ (認知症カフェ)
種類	<u>地域のコミュニティ</u> 子ども食堂 居場所 学習支援 フードバンク
連絡先住所	大和市西鶴間 1-1-5

名称	西鶴間小学校区「西鶴間わんぱく児童健全育成クラブ」
種類	地域のコミュニティ 子ども食堂 <u>居場所</u> 学習支援 フードバンク
わかれば 連絡先住所	電話 046-276-5612 南林間 1-13-3 市からの委託 父母会が運営

名称	南林間小学校区「学童保育レインボークラブ」
種類	地域のコミュニティ 子ども食堂 <u>居場所</u> 学習支援 フードバンク
連絡先住所	046-276-5525 南林間 9-1-24 市からの委託父母会が運営

名称	こども食堂プロジェクト@やまと
種類	地域のコミュニティ <u>子ども食堂</u> 居場所 学習支援 フードバンク
連絡先住所	「サポートハウス ワン・ピースやまと北」 下鶴間 コンフォール鶴間 1 階

● 綾瀬市 地域コミュニティ 1

※小中学校 完全給食実施 ※学習支援 生保・困窮世帯の中学生対象

名称	高齢者憩いの家
種類	<u>地域のコミュニティ</u> 子ども食堂 居場所 学習支援 フードバンク
連絡先住所	代表 大島正江

港北にもある子どもの〈新しい貧困〉を知る

～食・教育・心・もちろんお金も～



コーディネートしながら報告



市民の報告



社協もアピール



会場発言も

2017年4月16日 横浜北YMCA

主催：市民実行委員会 + 横浜北生活クラブ + かながわ生き生き市民基金

後援：港北区

協賛：港北区社会福祉協議会、横浜 YMCA

4月16日（日）10：00-13：00 横浜北YMCA

【講演】

地域みんなで子どもの未来を応援するために、つながりあって、
共に生きる社会をめざして！

NPO 法人フリースペースたまりば 理事長
川崎市子ども夢パーク所長
フリースペースえん代表
西野 博之さん

私は31年前から学校に行きづらくなった子ども・若者達の居場所づくりに関わってきました。また、川崎市子ども権利条例の策定にも関わってきました。現在は、川崎市子ども夢パーク（以下、子ども夢パーク）という子どもが自由に、どろんこになって遊べるプレイパーク（冒険遊び場）の活動と不登校・ひきこもり傾向等の子ども・若者の居場所（フリースペースえん）づくりの活動を行っています。子ども・若者を支える居場所づくりやその活動を通じての地域ネットワークづくりは皆さんの活動との共通点が多く参考になれば幸いです。



講演する西野さん

今日は、まず、今の子どもたちはどんな時代・社会を生活しているかについてお話します。次に子どもを取り巻く貧困と格差の状況をお話し、この様な厳しい状況の中を生活している子どもたちのSOSを如何にキャッチしていくか、感度がいいアンテナがたった大人になるために必要なことについて、子ども夢パークやフリースペースえんでの取組みを織り交ぜながらお話します。

1. 今の子どもたちは、どんな時代を生活しているのか

まず、統計の数字をもとに、子どもたちの生きづらい現状を共有したいと思います。2015年度の全国の児童相談所に寄せられた児童虐待相談件数が、過去最高の103,260件となっています。2014年度は、88,931件でした。また、不登校の児童生徒数は、全国の小中高校、高等学校の中退者をいれると22万5千人（資料1）となります。神奈川県公立中学校の不登校の生徒数は約30人に1人で高止

●不登校の児童生徒は何人くらい？
（2016年10月文部科学省発表）

全国の小中学校の
不登校児童生徒数は、約12万6千人

高等学校の不登校生徒数 約5万人
高等学校の中退者数 約4万9千人

資料 1 不登校の児童生徒数は何人くらい？

まりしています。ひきこもり⁹は、推計 70 万人¹⁰います。ひきこもり親和群をいれると推計 155 万人います。ひきこもりの子どもたちが就労しないで心配との声があります。では学校に行っていれば安全・安心かと言えばそうもありません。今の学校では暴力行為が増加していることをご存じですか。小中高校での発生件数は 1 年間で 5 万 7 千件、特に小学生の暴力行為¹¹が増加しています（資料 2）。更に小学校での暴力は低年齢化しています。その対象は、生徒間暴力が 64%で最も多くなっています。更に、自分より弱い子どもに暴力をふるう傾向があります。子どもが自分の感情を抑えられず殴りかかってしまう。その傾向は子ども夢パークでも見受けられます。文部科学省のデータによれば、被害児童のうち 5 人に 1 人が病院送りとなっています。小中高校でのいじめの認知件数もまた増加しています（資料 3）。暴力行為と同様に、小学校でのいじめの件数が多く、小学校 2 年生が最も多くなっています。幼稚園や保育園を卒園して小学校に入学した低学年が加害・被害者として最も多い、そんな時代を子どもたちは生きています。このことは、新しい貧困として人間関係のつながりが断たれていくことと、子どもたち同士が傷つけあっていることは無縁ではないと思います。最後は子どもの自死についてみていきます。小中高生の自死は、1 年間に 320 人（男 202 人、女 118 人）で、ほぼ、一日に 1 人が自らのちを絶っています。大学生・専修生を含めると 1 年間に 791 人になります（資料 4）。また 15 歳から 39 歳までの 25 年間にわたって、各年代の死因の 1 位が自死となっています¹²。こんな国は他にはありません。これから幸福な社会、つながりのある社会を考えるにあたって重要な課題だと思います。以上のような子どもたちの生きづらい状況を踏まえ、今日のテーマである子どもの貧困と格差についてお話しします。

暴力行為（2016年10月 文部科学省）

小中高校での発生件数は**5万7千件**

小学生の暴力行為は、データを取り始めてから過去最高に！（1万7000件 40%増加）

* 小学校1年生の加害児童数は76%増加

小学校2年生の加害児童数は77%増加

対教師暴力 約14% 器物破損 約20%

生徒間暴力 約64%

* 暴力行為「自校の児童生徒が、故意に有形力（目に見える物理的な力）を加える行為」

資料 1 暴力行為

いじめ（2016年10月文部科学省）

小中高校でいじめの認知件数は、**約22万5千件**

そのうち小学校でのいじめは、**約15万1千件（急増）**

（小学生の中で、〇年生が最多）

資料 2 いじめ

子どもの自殺

（2017年3月 厚労省発表）

小中高生の自殺 1年間に **320人**

大学生・専修学校生等もあわせると、

1年間に791人

《参考》

* 9月1日⇒過去42年間で子どもが最も多く自殺した日

2番目に多いのは、4月11日

15～39歳の各年代における死因の第1位は自殺

資料 3 子どもの自殺

⁹ ひきこもりの定義：半年以上就労・就学を行わず、家族以外の人とコミュニケーションをとっていない若者

¹⁰ 2010・7月 内閣府・全国実態調査による推計

¹¹ 暴力行為：自校の児童生徒が故意に有形力（目に見える物理的な力）を加える行為

2. 二極化する家庭環境－ネグレクトと過干渉

今日の子どもを取り巻く家庭環境は大きく二極化しました。一つは貧困の連鎖により引き起こされる様々なネグレクトと、もう一つは、「正しい親」をがんばろうとして子どもを追い詰める過干渉です。

(1) 経済的貧困が連鎖する様々なネグレクト

まず、子どもを取り巻く厳しい社会の状況を確認します。子どもの貧困率は、6人に1人(2014年)で、ひとり親家庭の貧困率は54.6%です。お母さんは、いくつかの仕事を掛け持ちしています。残念ながら、この社会は、お母さんが一人で働いて子どもを養える社会にはなっていない。生活保護受給世帯数(2014年)は、161万世帯、被保護人員(2014年)216万人で過去最高となっています。戦後間もない1951年の被保護人員は204万人で、その後、どんどん減少し、平成に入ってから100万人を割っていました。しかし、2011年から急速な勢いで被保護人員は200万人を超えてしまっています。年収200万円以下で働くワーキングプア¹²は、1980万人(2015年)¹³となっています。また、居所不明児童生徒数¹⁴が1961年(学校基本調査)以来、不明者の累計は、約2万4千人となっています。DV被害から逃れるため、新しい居住地で住民票をだせない子どもたちがいます。また、無戸籍の子どもたちも私たちのまわりにいます。無保険のため医者にかかれない15歳未満の子どもが3万人以上¹⁵います。実際にはその何倍以上の子どもたちが無保険で治療を受けられていません。教育においても、経済的格差が、そのまま学力の格差につながっています。更に、憲法では義務教育は無償とされていますが、小学校1年生でも年間35万円ほどの費用¹⁶を支払わねばなりません。

(2) 現場で見える子どもたちの貧困と格差

子どもの貧困は、相対的貧困と言われていますが、子ども夢パークの現場では、絶対的貧困も広がっているのではないかと思います。食べていない子ども、1日1食の子ども、医者にかかれない子ども・虫歯だらけの子ども、穴の空いた靴を履いている子ども、グローブやボール・ユニフォームが買えずに部活に入れない・試合や遠征に行く交通費もなく部活を続けられない子ども、塾に通えない・習い事ができない子ども。ショックを受けた子どものお話しです。その家庭を訪ねていったら、6畳一間に5人で生活していて、その子は押し入れの中で布団もなく寝ていました。また、ある母子家庭では、お母さん、娘ともに精神疾患でした。食事は、生活保護費をもらった日の夜中に、娘がコンビニのおにぎりを大量に買って帰ってきて、冷蔵庫と冷凍庫の中にストックする。それを少しずつ取り出して食べる生活を5年も続けていました。トイレを借りたら便器が真っ黒だったので、子ども

¹² ワーキングプア：非正規雇用、低賃金、社会保険無し

¹³ 加藤彰彦、『貧困児童』、創英社、2016

¹⁴ 居所不明児童生徒：住民票を残したまま1年以上所在が不明となり、その後の就学が確認できていない児童・生徒

¹⁵ 厚労省 2008年調査

¹⁶ 出典：文科省「子ども学習費調査」費用の内訳：学校納入金・その他学校教育費・学校給食費・塾・習い事等

と一緒に掃除道具を買いに行って掃除をしたら、真っ白になりとってもよろこんでいました。ご飯を炊こうとしても炊飯器がありません。「炊飯器が余っている人いませんか」と呼びかけたら、すぐに調達できました。お米を買ってきてご飯を炊きました。子どもは塩も何もかけていない白飯を食べて「すごく美味しい」と声をだしてボロボロと泣きました。

またある集会で聞いたのですが、県内の中学校で昼食の時間になると弁当を持って来られないので、「俺は、健康のため一日2食でいいんだ」と強がりながら、グラウンドを何周もランニングしている子どもたちがいるといいます。このように貧困が広がって、経済的な理由がもとで部活が続けられなくなる子どもたちもいて、貧困が子どもから学校生活や部活などのコミュニティを奪っていつています。

(3) 過干渉な家庭と子どものいじめ

もう一方の子どもへの過干渉は、子どもの貧困の対極ですが、子どもにとってはしんどさは同じで、大きなストレスとなっています。今日は、時間の関係で少ししかお話しできないことをご了承ください。日本の子どもの特徴は、自己肯定感が低い、自信がない子どもたちが多くなっています。これは親たちが抱える「不安」が大きく原因しています。親は、資料5にあるとおり、大人は、子どもに失敗させたらかわいそう？ 何でもできないよりはできた方がいい？ 私の子育て、このままでいいのか？ それらの思いは、「正しい親」に見られたい・「正しい親」と評価されたい、また、早期教育全盛に繋がっていきます(資料6)。色々な情報が親たちを苦しめていきます。その結果、資料7にある通り、これくらいできて当たり前でしょうと「完璧」「正しさ」を求めすぎる家庭となっていくます。子どもたちにとって、弱音がはけない家庭となり、つらい感情を押し殺し、それが怒りとなって、他者への暴力行為やいじめなどにつながっていきます。数学者の故森毅さんは、「健康で正常であること」を求め過ぎるこの社会は「健康強迫症」「正常強迫症」と指摘し、「いじめ」の構造と相通的であると言います。正しさを強調することは、みんな同じでなければならないことにつながり、異端を認めないぎずぎすした社会を生み出しています。過去20年間で22人のホ

子どもの「自信」を奪う おとなの「不安」

- * 失敗やケガさせたらかわいそう？
⇒親が先回りして「失敗」を未然に防止
- * なんでも、できないよりできたほうがいい？
⇒勉強もスポーツも・・・
- * 私の子育て、このままでいいの？
⇒「正しい親」という評価を受けられるか

資料4 子どもの自信を奪うおとなの不安

「正しい親」に見られたい

勉強できる子・スポーツできる子・友だち多い子
⇒子どもの評価が親の評価に結びついてしまう

早期教育全盛

リスクを回避するために、手遅れにならないように
早くから習い事をさせる
かけっこ家庭教師・逆上がり家庭教師
小学生が履く靴は？

資料6 「正しい親」にみられたい

「完璧」「正しさ」を求めすぎる家庭 (正常強迫症？)

これくらいできてあたりまえ
こんなこともできないの
普通これくらいできるでしょ
↓
「正しさ」が充満。弱音がはけない家庭環境
↓
つらい感情を、外に出せない

資料7 「完璧」「正しさ」求めすぎる家庭

ホームレスのおっちゃんが少年たちに襲われ命を落としました。2020年の東京オリンピックが近づくと、ホームレスのおっちゃんに、さらに厳しい視線が広がるでしょう。近ごろ子どもに、ホームレスのおっちゃんは努力しないからホームレスとなったんだ、社会の屑だと間違えて教える親が増加しています。子どもは正しくあれ、いい子であれとして育てられます。その結果、ストレスが溜まり、そのはけ口の一つとして、ホームレスのおっちゃんの段ボールハウスを、傘でさしたり、石を投げ込こんだり、ロケット花火を打ち込み襲撃する子どもたちが増えているのだといいます。この問題を授業にして子どもとともに考えていこうという取り組みも広がっています。

3 子どもたちの SOS を如何にキャッチしていくか

(1) 子どもは辛いことほど飲み込む

今日は、これからプレイパーク、子ども食堂、無料学習塾などの地域の取組みが報告されますが、私は、こういう取組みをする意味や必要は、**資料8**にあるとおり、「子どもはなかなか、言葉にして助けを求めることができない」、ここにつきると思います。辛いことほど飲み込みます。「もう、夜毎、とうちゃんは、私の布団に入ってきて私の体をさわりまくる。絶対、母ちゃんは、気づいているのに何も言わない、誰も守ってくれない、この家は安全でない....」これは、性的虐待にあった少女の体験です。被害にあっている子どもは、はけ口のない思いを言葉にできずためこんでいます。しかし、子どもは知らない大人にこんなしんどいことを簡単には伝えられません。この人なら大丈夫と思える安心が担保されていないと話せません。また子どもはなかなか、相談機関は利用しません。親や大人に心配をかけまいとします。虐待した親まで守ったりします。私が、里親型ファミリーグループホームで受け入れた子どもは自ら児童相談所に虐待を受けていることを相談しました。この子どもは、CAP という授業を受けていたので、「助けて」を言っているんだ、「児童相談所に伝えればいいんだ」ということを知っていました。この様なケースは極めてまれです。気づきにくい子どもの SOS を大人が如何に気づくかが問われているのです。

(2) 川崎中学生死亡事件から学ぶ

中学生死亡事件から2年たちました(**資料9**)。上村遼太君が島根県から川崎市に引っ越してきて、川崎市の小学校に入りました。どうも自分の居場所がみつからないまま、中学校に

子どもはなかなか言葉にして助けを求めることはできない

- 辛いことほど飲み込む
- 親やおとなに心配かけまいとする
- 自分のプライドが邪魔をする
- なかなか相談機関を利用しない子どもたち
(知らないおとなに悩みを簡単には打ち明けない)

⇒気づきにくい子どものSOS

資料8 子どもはなかなか言葉にして助けを求めることはできない

川崎中学生死亡事件から学ぶ
～「被害者」も「加害者」も生まないために～

- *「遊び場」など、子どもの「居場所」の必要
- *子どもの「SOS」をキャッチできる
感度のいい大人の存在



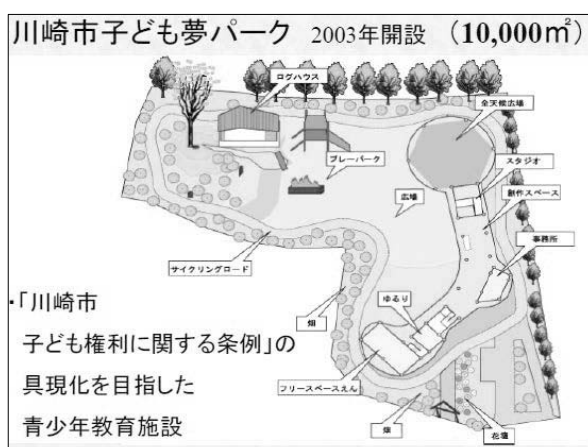
資料9 川崎中学生死亡事件から学ぶ

入り、そして、夜間、徘徊をしながら遊ぶようになっていきます。2015年1月から不登校になっていた上村君（当時中学1年生）が「先輩、遊びましょうよ」と送ったメールがきっかけになって、2015年2月20日の寒い深夜、呼び出されます。真っ暗闇の中、多摩川の河川敷で、裸にされて、泳がされ、上がってきたところをカッターナイフで首を中心に40数か所切り刻まれて亡くなりました。なぜ彼を助けられなかったのでしょうか。彼が殴られ青タンを作っている写真は子どもたち同士のSNSには送られていました。子どもたち同士は情報を共有し腹をたてた子どもたちが、加害者の主犯格の少年の家に怒鳴り込みに行ってくれている。だけど、守れなかった。大人たちは被害者、加害者のSOSをキャッチできなかった。

私は、この事件の有識者会議・専門委員会メンバーとして検証にあたりました。その時に、私たちは、「子どものSOSをキャッチするためには、地域に子どもたちの遊び場の整備が必要」と、川崎市長に提言させていただきました。川崎市がこの事件が起きた直後に行ったことは、公園の周りの樹木を伐採し外から見えやすくし、照明施設や監視カメラの増設を検討することでした。それで、子どもの事件の再発を抑止できますか。事件が起きた時も子どもたちの姿は監視カメラには映っていませんでした。多少の抑止力になるかも知れませんが、監視カメラに映るから暴行を止めようとはしません。子どもの行動は衝動的です。本当に必要なことは、そこではないと思います。また、川崎市は、子どもたちに相談機関リストを配布しました。「川崎市にはこんなに、相談する場所があります」「どうして、相談機関を利用してくれなかったのか」と。冗談じゃない、子どもは相談機関にまず、行かないのです。子どものSOSが届いてくるのを部屋の中で待ってるだけではダメなんです。大人が、市民が、子どもの居場所を作り、子どもとの関係を作っていかなければ、子どものSOSはキャッチできません。それが見えにくい「新しい貧困」の中で、求められています。そこには、地域の居場所と子どものSOSをキャッチできる感度のいい大人も必要となります。

（3）地域の居場所の役割

子どものSOSをキャッチするためには、地域に遊び場や居場所があること、そしてそこに常時、感度のよい大人がいることが必要です。まず、居場所について子ども夢パークでの取組みも入れながらお話しします。今日、これから報告があるプレイパーク、子ども食堂、無料の学習塾も居場所に含まれます。子ども夢パークは、2003年に「川崎市子どもの権利に関する条例」を基に作られました。私たち（NPO 法人フリースペースたまりば）は、2006年から、指定管理者として3000



資料 10 川崎市子ども夢パーク

坪の敷地・施設の管理・運営をしています。朝9時から夜9時まで開園しています。来年6



資料 11 「ケガと弁当、自分もち」



資料 12 子どもの自由な発想で、自由に遊ぶ

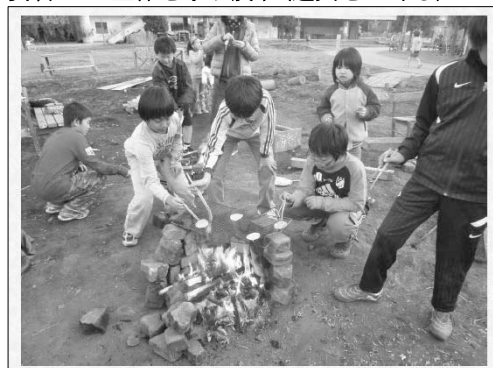
月頃には利用者が 100 万人を突破する見込みです。同じ敷地内に遊びエリア、施設エリアがあります。そこで、私たちはプレイパークづくりに取り組んできました(資料 10)。残念ながら、まだ、川崎市では十分に広がっていません。子ども夢パーク(プレイパーク)は、「ケガと弁当、自分持ち」でやりたいことにチャレンジする居場所です(資料 11)。自分の責任で、自由な発想で、自由に遊ぶ。好きなだけ穴を掘りたかったら掘っていい。その遊びの続きが明日できる居場所です(資料 12)。子どもはこうした遊びを通して、快・不快を手に入れて、人間関係を育んでいきます。こうした遊びと暮らしの主体を取り戻す取り組みの背景には、子どもたちが遊びの消費者の役割しか担わせてもらえなくなってしまった悲劇があります(資料 13)。遊びも大人が作った「遊び」で受動的に遊ばされています。また、子どもには安心して失敗できる環境が重要です。子ども夢パークの中で子どもたちは、「ケガ」や「失



資料 13 主体を取り戻す(遊具をつくる)



資料 14 人類は火と道具を使って、成長・発達した



資料 15 火おこし写真

敗」を恐れるのではなく、「失敗」を重ねながら、それを乗り越える力を育んでいきます。今、大人は、子どもにケガをさせないように、失敗させまいと思って、先回りした子育て環境をつくり、子どもたちはあまり失敗を経験していません。子ども夢パークでは、子どもたちに新聞紙とマッチを渡し、それを使って子どもたちは、火をおこしま

フリースペースえんとは・・・

さまざまな背景を持つ不登校児童生徒の
権利保障を目指してつくられた
公設民営のフリースペース。

発達・知的・精神・身体などさまざまな障害や
非行などの背景を持つ子ども・若者たちも受け
入れている

- ・会費 無料（昼食を食べた人は250円）
- ・会員登録制
- ・義務教育年齢にとらわれず、高校進学後も利用できる

資料 16 フリースペースえんとは

【基本理念】

自己肯定感を育む居場所づくり

「生きている」ただそれだけで
祝福される

そんな場をみんなでつくって
いきたいと考えています。

資料 17 基本理念 自己肯定感

昼食づくり (毎日)

1日に
30人～40人
が一緒に食べる

25年前から
ずっと
続いていること



資料 18 昼食づくり

暮らしを取り戻す 「子ども食堂」の持つちから

- ・「問題行動」を繰り返す子どもの多くが、
空腹を抱えている。
(無免許のバイクで乗り込んできた少年)
- ・お年寄りも一緒に、色々な人の知恵に学
びながら、異年齢が混ざり合って食べる
ことの豊かさ。
- ・「ひとりじゃない」を実感。煮詰まらずに、
暮らしの中に「風」が入ることの大切さ。

資料 19 「子ども食堂」の持つちから

す。やっと火がついたらうれしくて、焼けているお煎餅まで焼いて食べています（資料 14、資料 15）！ 人間は火と道具を手に入れて、成長、発達してきた生き物であるにもかかわらず、私たちは子どもからそれらを奪った社会を作りだしています。今、子ども夢パークでは、刀づくりが流行っています。かんなを使って作っている子どももいるので、すごい刀です。その刀で遊ぶので、大変ハラハラしています。ケガをするかも知れませんが、そうやって子どもは生きる力を育んでいきます。

子ども夢パークには、不登校児童・生徒の居場所であるフリースペースえんがあります（資料 16）。義務教育年齢にとらわれず、高校進学後も利用できます。会員登録数は 129 名（2017 年 1 月末現在）で、年齢・国籍・障がいの有無・非行傾向に関わらず、誰もが無料で通うことができます（資料 17）。毎日、昼食を作って食べます。もう 25 年間も続いています。毎日、お昼ごはんを作って食べるだけで、子どもたちが元気になっていきました（資料 18）。一緒にご飯を作って食べて「おいしい、うれしい、たのしい」でつながる仲間となって、だんだんと暮らしを取り戻していきます。子ども食堂の持つちに通底していると思います（資料 19）。

この様に、居場所としての子ども夢パーク（プレイパーク）やフリースペースえんは、子ども・若者たちの失われた自尊心や自己肯定感を高め、自信をつけてくれるプロセス等で非常に大きな影響があります。SOS を発信する子ども・若者のための居場所づくりを地域で取

組む必要があります。亡くなった上村遼太君の居場所はどこにあったのでしょうか。家庭だったのか、地域なのか、学校なのか。彼にはどこにも行ける場所はありませんでした。さらに、17歳、18歳の川崎市在住で市立高校定時制を中退したりした若者が、殺人犯になってしまいました。「オギャア、オギャア」と泣きながら生まれてきた時に、「殺すぞー、殺すぞー」と言って生まれてくる子なんかいません。生育のプロセスの中で、そういう子がつくられていく。これは私たち社会の大人たちの大きな課題です。

（４）感度がいい大人とはどんな大人？

子どもの思いを受け止められる、感度がいいアンテナがたった大人になるためにはどうしたらいいのでしょうか？ ①まずは子どもの話を聴くことが必要です。言葉にならない思いを受け止めましょう。正誤・善悪はさておき、子どもは自分の話をしっかり聴いてくれる大人の存在を身近に感じる事ができた時、初めて自分の問題に向き合おうとすることができます。②気をつけないといけないことは、^{しえんしゅう}支援臭を発する大人にならないことです。子どもは、かわいそうな「あなた」を支援してあげたいという臭いを漂わせている大人には近づきません。「支援」は一方通行では成り立ちません。③子どもの「怒りの感情」を理解すること。理不尽な扱いに対して言葉にできず、怒りを爆発させる子どもたちがいます。小さいころから気持ちを表す言葉をたくさん獲得できているといいのですが、そうでない子に少なからず出会います。「寂しかったね」「悲しかったね」「怖かったね」「辛かったね」「痛かったね」「悔しかったね」。たくさんの豊かな日本語で自分の気持ちを表現できる環境が子どもたちに必要です。④子どもを否定的にとらえそうになった時は、「まずは自分が使った〈ものさし〉を疑う」練習をしましょう。そのためには自分の怒りをコントロールすることが大切です。多様な〈ものさし〉を手に入れ、「自分の問題」の整理を心がけましょう。⑤「大丈夫？」と聞かれて「大丈夫です」と答えが返ってきたら、大丈夫ではないんです。子ども達は虐待やいじめを語りたがりません。⑥最後になりますが、子どもたちに、「生きているだけですごいだ」「生まれてきてくれて、ありがとう」「あなたがいてくれて幸せだよ」を届けましょう。消えてしまいたい。透明になりたい。存在が希薄な子どもたちは、「僕を見て」「私はここにいますよ」を伝えたくて、わざわざ問題行動を起こしています。子どもの「存在」を根付かせる、つながりを生み出す取組みが必要です。

（５）子ども夢パークでの子ども SOS のキャッチ

言葉にならない子どもの思いをキャッチするため、子どもたちとのコミュニケーションや関わりを通じてアンテナを立てています(資料20)。貧困(ネグレクト)の状態にある子どもは、お腹を空かせている、何日も同じ服を着ている、家に帰りたがらないなどの特徴があります。「問題行動」を繰り返す子どもの多くが空腹を抱えています。こんなことがありました。小学生なのに

「言葉にならない子どもの思いをキャッチ
～「助けて」を言葉にしづらい子どもたち～」



虐待やいじめから
子どもを守る

- * お腹をすかせている
 - * 何日も同じ服を着ている
 - * 家に帰りたがらない
- ⇒発見する相談

・子どものSOSをキャッチできるアンテナを立てる
資料20 言葉にならない子どもの思いをキャッチ

「もう6時だよ、小学生は6時に帰るのが約束だよ」と何度言っても閉所時間の午後9時まで帰ろうとしない。近くにいくと体がにおってくる。明らかに様子がおかしいので、児童相談所に通告したら、長く親が不在でネグレクトがわかり保護された子どもがいます。この

ながら相談(料理しながら、焚火しながら、ふと辛いことを口にする子どもたち)



資料 21 ながら相談

子どもたちの胃袋をつかむ
(屋外型子ども食堂)



資料 22 こどもたちの胃袋をつかむ

様な「発見する相談」は子どものSOSをキャッチするためには有効です。また、料理をしながら、焚火をしながらなどふと辛いことを子どもたちは口にすることがあります。そんな「ながら相談」を利用して子どもたちの声をキャッチしています(資料21)。子どものSOSをキャッチするには、子どもたちの胃袋をつかむことも有効です(資料22)。夜に外の焚き火でわざとインスタントラーメンを多めに作っていると、腹をすかせた若者が集まってきて、「ずるいじゃん、ちょっとちょうだい。腹減ってるんだよ」「やだね、これ俺たちの夕食だもん」とスタッフが返すと、「いいからちょうだい!」とせがんできます。「しょうがないな?」と言いながらのびた?! ラーメンを分けると、顔つきも落ちついて色々な話がでてくるんです。「昨日、おやじが酒飲んであばれて、かあちゃん殴ってた。まじ殺してエ」「母ちゃんが、家に男を連れ込んで、トイレに行けなかった…」など。この子どもたちをどうやって救っていくか、関わりを持ち続けることが今、問われています。

4 終わりに一今後にむけて

子ども貧困の問題がテレビでよく取り上げられています。それに対してフリースペースに通ってきている子どもが、「俺、ほんとよくわかったんだよ。こないだ貧困のテレビを見て、絶対、俺、違うと思ったの、貧困じゃないって。自分は今フリースペースえんの中でこれだけ仲間がいる。だから貧乏だけど貧困じゃない。」と言いました。先ほどお話しした押し入れに寝ていた子どもです。たくさんの仲間とのつながりが、彼に大きな自信を与えてくれました。そんな彼の言葉にほろっときました。また、あまりばのスタッフが「自立が叫ばれるようになって、孤立が増えた」とつぶやいていました。

困難を抱えるこども、若者を支える 地域ネットワークづくり

- ・自ら「助けて」を発しにくい子ども・若者とその家族のSOSをキャッチできる仕組みをつくる
- ・寄り添いながら、必要な機関・団体・人につなげる。
- ・子どもの貧困は、ヒトゴトではなくジブンゴト
- ・ネットワークを機能させるコーディネーターの必要

資料 23 地域ネットワークづくり

「自立」とは一人でなんでもできることではないと思います。「助けて」が言える、適度
人に依存できる力やつながりが「自立」するには必要だと思います。彼やスタッフの言葉は、
つながりや支えあいの重要性を教えてください。今後とも、地域で困難を抱える子ども・若
者を支える地域ネットワークづくりに取り組んでいきます（資料 23）。みんなで共に汗をか
き力を合わせて、子ども・若者や子育てを社会で支える仕組みをつくって行きましょう。

最後に、「子どもからおとなへのメッセージ」を紹介して講演を終わります。このメッセ
ージは、「川崎市子どもの権利に関する条例」施行1か月前の2001年3月、条例をお披露
目するための市民報告集会で、子どもたちが最後に語った大人へのメッセージです。

「子どもからおとなへのメッセージ」

まず、おとなが幸せでいてください。

おとなが幸せでないのに、子どもだけが幸せになれません。

おとなが幸せでないと、虐待とか体罰がおきます。

条例に、子どもは愛情を持って育まれるとありますが、

まず、家庭や学校、地域の中で、おとなが幸せでいて欲しいのです。

子どもは、そういう中で安心して生きることができます。

（川崎市子ども権利条例策定子ども委員会）

（参考資料）

- 1 西野博之、山田香織「これからの子ども支援～あと一步踏み込む～」『子ども環境学研究第11巻第2号（通巻31号）』、公益社団法人子ども環境学会、2015・8
- 2 西野博之 「子ども・若者の学びと育ち、生き方を支援する～フリースペースたまりばの実践から～」『参加型システム研究所第1回オープン研究会講演抄録』2016・7
- 3 森 毅「不健康のままで生きさせてよ」『高校生のための批評入門』、ちくま学芸文庫、2012

（資料一覧）

- 資料1 不登校の児童生徒数は何人くらい？
- 資料2 暴力行為
- 資料3 いじめ
- 資料4 子どもの自殺
- 資料5 子どもの自信を奪うおとなの不安
- 資料6 「正しい親」にみられたい
- 資料7 「完璧」「正しさ」求めすぎる家庭
- 資料8 子どもはなかなか言葉にして助けを求めることはできない
- 資料9 川崎中学生死亡事件から学ぶ
- 資料10 子ども夢パーク
- 資料11 「ケガと弁当、自分もち」
- 資料12 子どもの自由な発想で、自由に遊ぶ
- 資料13 主体を取り戻す(遊具をつくる)
- 資料14 人類は火と道具を使って、成長・発達した
- 資料15 火おこし写真
- 資料16 フリースペースえんとは
- 資料17 基本理念 自己肯定感
- 資料18 昼食づくり
- 資料19 子ども食堂のもつ力
- 資料20 言葉にならない子どもの思いをキャッチ
- 資料21 ながら相談
- 資料22 こどもの胃袋をつかむ
- 資料23 地域ネットワークづくり

【報告 1】

プレイパークはみんなの居場所

鯛ヶ崎公園プレイパーク運営委員会副代表 山口 園子さん
プレイリーダー はんす（山口 佳之）さん

鯛ヶ崎公園プレイパーク（以下、鯛ヶ崎プレイパーク）は、日吉の里山を子どもの遊び場として守っていこうと、1994年に鯛ヶ崎公園でプレイパークを開催したのが始まりです。今年で23年になります。横浜市内のプレイパークは、現在、24ヶ所で港北区には3ヶ所あり、子どもたちの気持ちに寄り添うプレイリーダーが配置されています。プレイパークは、「ケガと弁当は自分持ち」「自分の責任で自由に遊ぶ」を基本に禁止事項を極力なくした野外の遊び場です。運営は地域住民が主体となり、横浜市からの支援と協力を得て行われています。鯛ヶ崎プレイパークは、現在、毎週火、水、木曜日と第2、第4土曜日と続く日曜日に開催しています（資料1）（資料2）。地域資源（学校、主任児童員、子ども関係の居場所、市の青少年局、保健センター、児童相談所等）と連携して運営しています。鯛ヶ崎プレイパークの利用者は1日100名程度で、近隣の小学校、中学校の子どもたちや園外保育、遠足、学校の授業、中高生のボランティア活動、大学生のインターシップなどの利用もあります。学校に行けない子ども、支援学級の子ども、家庭に課題を抱えた子どもなど様々な子どもが来ています。様々な子どもたちは、一日一緒に過ごしている中で、プレイリーダーやスタッフに自分の心の中をつぶやくことがあります。

「（プレイパークは）大きいおにいちゃん
と、大きいおねえちゃんがたくさん遊んでくれるところです。」「たいがさき（プレイパーク）



左：山口さん 右：はんすさん

どんな場所？

- ・「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに禁止事項を極力なくした、野外の遊び場。



資料1 どんな場所？

鯛ヶ崎公園プレイパーク

・成り立ち

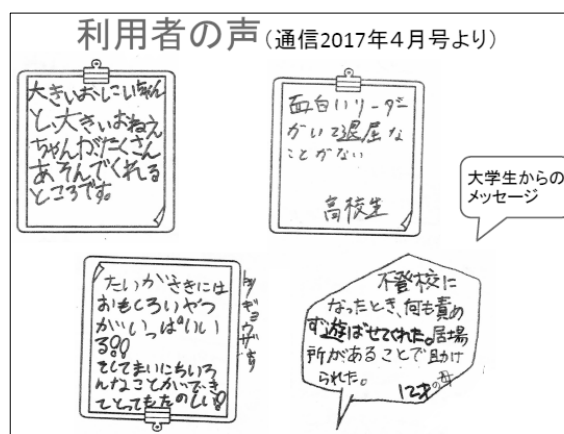
日吉の里山を子どもの遊び場として守ろうと、「あおばずくの会」を箕輪の森で開いていた人達が日常的に遊べる場をと、日吉本町鯛ヶ崎公園で1994年に開催し23年間活動。

2006年 毎週水、木曜と第2土日曜日に開催、管理運営委員会設立、YPCネット設立に伴いプレイリーダー配置

現在、毎週火、水、木曜と第2、4土曜と続く日曜日に開催。プレイリーダー2名配置。

資料2 鯛ヶ崎公園プレイパーク

にはおもしろいやつがいっぱいいる！！」
「面白い（プレイ）リーダーがいて退屈な
ことがない 高校生」「不登校になったとき、
何も責めず遊ばせてくれた。居場所がある
ことで助けられた。12歳の子の母」「小学校
3年生の時に不登校になりプレイパークに
通った。学校の垣根を越えて、学校ではでき
ない火をおこしたり、のこぎりを使ってお
もちやを作ったりして、徐々にみんなの輪
の中に入っていくことができるようにな
り、学校へ通えるようになった。大学2年生



資料3 利用者の声（通信2017年4月号より）

になった今は、イベントなどのボランティアとして運営を手伝っている。プレイパークは私にとって心のよりどころでかけがえのないものです。」（資料3）。これは、2017年4月のプレイパークの通信に掲載した子どもや親の声です。私たちは、この様な心の声を大切にして運営していきたいと思っています。開設当初に比べると、子どもたちを巡る環境は大きく変化し、子どもの遊ぶ場や遊ぶ時間が減少し、仲間が減少しています。子どもも忙しくなり、知らない大人との関係を避けたり、教わる等の目的がある大人とだけ関わるようになっていきます。また、子どもを取り巻く大人も少なくなり、ゆとりの中で学んでいく機会が減少しています。更に、子どもの経済的貧困と連鎖した子どもの経験や体験の欠如、大人とのつながりの不足が生まれ、子どもの成長に大きく影響しています。プレイパークは、子どもたちが、気持ちを開放し自らが体験を通して学んでいく場です。また年齢や地域を超えた交流の場で、交流を通じて人を信じる気持ちが育っていく場でもあります。子どもの貧困を超えていくためには、港北区での子ども食堂の開設だけでなく、子どもに関わる人や場所が増えていくことを願っています。

【報告2】

べんきょう会はたくさんの人に支えられている！

寄り添い型学習支援事業・港北べんきょう会 楠の木学園 コーディネーター 鈴木 澄江さん

港北べんきょう会（以下、べんきょう会）は、生活保護世帯や生活困窮状態にある家庭に育つ中学生に対して、2011年から高等学校等への進学を支援するために港北区から学習支援事業として委託を受け始めました。現在は週2回、区内の公共施設で実施しています。実

施するにあたっては、生活保護者バッシングの恐れもあり、べんきょう会に参加することを知られたくない子もいるので場所を公表していません。子どもが友だちを連れてくることもあります。初期のころは生活保護世帯の子でないと受け入れることが許可されずつらい思いをしたこともあります。現在は必要に応じてもっと柔軟に対応できるようになりました。1回のべんきょう会に10人ぐらい参加します。講師は、学生、教員OB、社会人OB等で、指導は原則、個別指導です（資料1）。6年間の実績は、資料2のとおりで、2016年は53人（内7人は支援を必要な世帯）、延べ1276人の子どもが参加しています。港北区内



鈴木澄江さん

4. どんな活動？		6年間の参加生徒人数(2教室合計)						
時	週2回 18:00～20:00 学習支援 20:00～21:00 振り返り							
所	区内の公共の施設2か所で一回ずつ (高校生のための日はその他に週1回)							
主に大学生、院生、教員OB、社会人OBによる 原則個別の学習支援(スタッフ登録は10～15人)								
生徒の希望と状況にあわせて教材や学習内容を 決める。おやつタイムの雑談も貴重。時には一緒 に百人一首、歴史カルタなどを楽しむ。 年に3回ほど食事つきの楽しいパーティー。								
		年度	2011	2012	2013	2014	2015	2016
中1			0	5	8	7	10	10
中2			3	24	15	10	13	21
中3			7	12	30	28	20	22
合計			10	41	53	45	43	53
各年度の 延べ参加者			161	1005	1024	1432	1295	1276

資料1 どんな活動？

資料2 6年間の参加生徒数(2教室合計)

港北区内中学生と参加者				
区内中学校生徒	5079人			
区内生活保護所帯の中学生	87人			
べんきょう会参加	53人(生保外7人含む)			
2017年3月現在	中1	中2	中3	合計
生活保護家庭	28	31	28	87
べんきょう会参加者	7	20	19	46

資料3 港北区内中学生と参加者

7. 勉強が分からなくて困ったら？	
思いつく対処法	港北べんきょう会の生徒の声
1. 先生に聞きに行く。	1. 先生は忙しいので、何回行っても教えてくれない。
2. 授業を真面目にうけて自分でがんばる。	2. 先生の周りはできる子が独占していて入れない。 (内申書重視の風潮から)
3. 教科書をよく読む。	3. どうやって勉強したらいいかわからない。
4. 親に教えてもらう。	4. 勉強する場所がない。
5. 塾に行く。	5. 塾に行くお金はない。

資料4 勉強が分からなくて困ったら？

の生活保護世帯の中学生が87人ですので、べんきょう会に参加している割合は、52%（46人/87人）となります（資料3）。べんきょう会に参加している子どもの中には、優秀な子どももいますが、学習につまずいている子が多く、分数・少数の計算ができない、掛け算の九九をマスターしていない、簡単な漢字が読めない、日本の都道府県がほとんどわからないなどのケースもまれではありません。学校に通っていて十分な知的能力があるのに何故、このようなことが起きるのでしょうか？ べんきょう会の子どもたちに尋ねてみると、資料4にある様に、学校では先生が忙しく教えてもらいにくい、勉強の方法が分からない、勉強する場所がない、塾に行く経済的余裕がない、があげられました。6年間のべんきょう会で出会っ

8. 6年間で出会った子ども達の状況①

参加者90%以上が単親家庭、主に母子家庭。

- 乳幼児の弟妹がいて、母親が仕事をしていたり、身体が弱く、家事育児の手伝いで勉強どころではない。
- 兄弟に障害のある子がいるケースも多い。
- 親が外国出身で日本語が不自由。進学について相談できない。
- 母親しかいないのにその母親の心身の健康状態が悪くて、頼ることはできずいつも不安を抱えている。

6年間で出会った子ども達の状況②

- 父子家庭で父親が夜勤なのですれ違いばかり。食事はいつもひとりで食べている。
- 高齢の父親単親家庭。生活面の教育ができていないで放置されている。
- 父親の暴力から逃げて、母子で転々としてきたため、落ち着いた環境で暮らした時期が少ない。
- パソコン、スマホがなく、宿題でハンディが。
- 親の事情で祖母(困窮)と暮らしている。
- 親も厳しい環境で育ち、十分な教育を受けることができなかったため、家庭生活でも仕事でもハンディをかかえている。

資料5 6年間で出会った子ども達の状況①

資料6 6年間で出会った子ども達の状況②

た子どもたちは、90%以上が単親家庭で、その多くは母子家庭でした。更に、資料5、資料6にあるとおり、貧困だけでない親に頼ることができない厳しい家庭の状況が窺えます。そのため、べんきょう会では、努力している姿を見守り励まし、心身ともに落ち着いて勉強できる環境をつくり、分からないことを相談してもらい、努力すれば成功する経験を積み上げてもらうことに努めています。特に港北区は周りの家庭の水準が高く孤立しやすいので、子どもたちが自己肯定感を持てるようにと心がけています。今年の中学3年生から、「今まで分からないことが分かったりすると本当に楽しい。」「べんきょう会が第三の家となって心に余裕が持てるようになった」、「べんきょう会で皆が努力していたので頑張ることができた」などの声が寄せられました。子どもたちとは、中学卒業後も継続したつながりを持ちたいと思っています。べんきょう会は、私たちだけではできません。他の機関、学校、行政、学生、地域のボランティアの方に支えられています。若い学生の参加は、中学生にとって、身近な目標として共感を呼びやすく良い影響を与えています。また、2016年から月1回、地域のボランティアの方からおむすびと汁物を作っていただいています。今後とも私たちは息長く子どもたちに寄り添っていきたいと思いますが、子どもの貧困の問題を、皆が他人事と考えないこと、教育費に対する過重な家計負担に対して皆で声をあげることも重要と思います。

【報告3】

ミエルは「新しいコト」を起こすプラットフォーム

NPO 法人街カフェ大倉山ミエル 鈴木 智香子さん

皆さん、コミュニティカフェって知っていますか？ スタバとの違いはわかりますか？ スタバではとなりの人に声をかけませんが、コミュニティカフェでは、となりの人に声をかけます。だんだんと「顔が見える」つながりができていきます。おせっかいな人？！が、「あの人が来ているから、あの人に紹介しよう」と声をかけます。そのうちに「その人の後ろにある」活動がつながっていきます。つながった人や活動が、「新しいコトを起こす」プラットフォームになります。コミュニティカフェとは、そんな魅力的な居場所です。



鈴木智香子さん

私はもともと、建築の勉強をしていて、参加型のまちづくりとか冒険遊び場（プレイパーク）の様な活動に興味を持っていました。結婚後、夫の転勤で札幌に転居し、そこで、2002年に「旭山公園キッズ」という冒険遊び場を立ち上げました。そして2006年に横浜に帰ってきて、「公園遊びのおるたん」を立ち上げました。その縁で、コミュニティカフェを2010

まちとのかかわり

- ・商店会とは、イベントの企画、運営
⇒大倉山おへそでの
セタ・ハロウインの定期開催
- ・つながりジャム～ワイワイ会議
⇒「ソクラテス講座」街の達人が集まる場づくり
- ・空家の活用
⇒ まめどスペース結の運営経験を生かして

「まちの資源」を有効に活かす
人材、場所、資材、⇒「みんなの食堂」へ



資料1 まちとのかかわり

資料2 セタイベント：ハロウィン



資料3 大倉山おへそ



資料4 ギャラリーカフェ・夢うさぎ



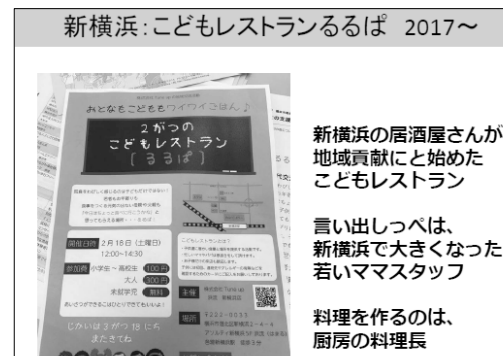
資料5 大倉山みんなの食堂



資料6 おるた家族食堂

年に始め、翌年に NPO 法人街カフェ大倉山ミエル（以下、大倉山ミエルという）を設立し、さまざまな企画を行い、そのつながりは子ども食堂にもつながっています。やってきたことに共通していることは、仲間を巻き込みながら自由な居場所づくりを仲間と一緒に考え、作り出していくこと、また、来られる方が一方的なお客さんでなく、立場を変えて主体的に参加できることにこだわっていることです。大倉山ミエルでは、まちと人とかかわり、色々なつながりを作り出しています。資料1、資料2にあるとおり、まず、エルム通り商店会と連携してイベントの企画、運営を行っています。また、商店会と協働し商店会の空きスペースを活用して「大倉山おへそ」という拠点をつくり、会議やイベントなどへの場所の提供や情報の発信などを行っていました（資料3）。

「店」があれば、そこに「人」がいる。そこに「場所」があれば、そこに「人」が集います。私たちがつなぐことで、「ご縁」がさらにつながっていくことを期待して、情報の発信をしています。また、昨年から「ギャラリーカフェ・夢うさぎ」で、地域の方々へのランチやお弁当の配食などを行っています（資料4）。子どもの貧困やまちの人たちが孤立化する中、みんなでわいわい、一緒にごはん食べることを目的に始まった「大倉山みんなの食堂」は、港北区で30年も続いているらくらく市（福祉バザー）でのつながりの中から生み出されました（資料5）。そのつながりは、大倉山ミエルに集まってくる人たちともつながっています。実施主体は、「港北区に子ども食堂を作る会」で、月1回、社会福祉法人「かれん」の場所をお借りし、ボランティアの方の協力を得て実施しています。この様な動きは新横浜でも広がっています。みんなで作ってみんなで食べることを基本に始めた「おるた家族食堂」（資料6）、新横浜の居酒屋さんが地域貢献にと始めた「こどもレストランるるば」（資料7）などの取組みが始まっています。今後は、大倉山ミエルは、大倉山で人と人をつなぐ情報紙「みんながみえる通



資料7 こどもレストランるるば

信」の定期発行、空き家を活用した子ども食堂や認知症カフェづくり、配食サービスと移動サービスをつなぐため菊名コミュニティバスとの連携などに頑張っていきたいと思いますので、引き続き応援と参加をお願いいたします。

【報告3】

地域食堂「大倉山みんなの食堂」

港北区に子ども食堂を作る会 宇田川規夫さん

私は、港北区在住で国際救急法研究所を主宰し、安全の問題に取り組んでいます。今日は「港北区に子ども食堂を作る会」が「大倉山みんなの食堂」を開設した経験から地域食堂を開設する際に押さえていかなければいけない点を中心にお話します。

食堂を立ち上げる契機は、2016年3月に港北区社会福祉協議会が開催した「食支援に関する意見交換会」です。参加したメンバーは、らくらく市（福祉バザー）等を通じて以前からつながりがあり、港北区内で子ども食堂づくりが始まりました。6月には子ども食堂の名付け親である「気まぐれ八百屋だんだん」の近藤博子さんを招いて講演会を行いました。食堂の開設場所は、社会福祉法人「かれん」の協力が得られ場所を借用できました。名称は、「子ども食堂」という名称が子どもの貧困対策と短絡的に受け取られ、利用者が使いにくくなってしまうため「子ども食堂」という名称を避けることにしました。

食堂は、地域の食堂として位置づけ「大倉山みんなの食堂」としました。また、一方的に子どもたちに食事を提供するのでは主体性を削いでしまうことになるので、子どもたちからも参加費をいただくことにしました。大人500円、子ども100円です。但し、お手伝い特典として、お店のお手伝いをしてもらおうと食事代を半額としました。対象は、経済的な貧困の家庭だけでなく、子育ての困難を抱えた家庭、地域との関係を作れず孤立している家庭などとし、そのような課題を解決するため地域の力を集める工夫をしました。

港北区内には、様々な動きがあり、その動きとも連携しました。最初から地域の食堂を本格的に始めることは難しいので、3回の試作会を行い、実施にあたっての手順、一回に用意する量、実施に必要な運営人数、必要な物品の確認ができました。試作会で分かった点（資料1）は、①予約制でないで、一回に

試作会で分かったこと

- 予約制でないからー40人以上作り、残ったらボランティアが買い取ることに
- フロアマネージャー的なスタッフがいて便利
- 来店者をお願いを提示共に作り出す場の工夫



資料1 試作会で分かったこと／試作会で子どもの面倒を見る宇田川さん

40 人以上以上つくること、②残った食材はボランティアで買い取ることに、③色々な人が来られるので臨機応変に対応できるフロアマネージャー的なスタッフがいると便利、試作会では私がフロアマネージャーになりました、④何か問題が起きると来店者にもそれを提示し、一緒に解決策を考えてもらうようにすること、でした。

2017 年 4 月の開催で 4 回目となり試作会が終わり、月 1 回開催していくことになりました。食材などの寄付もいただいています。食堂を立ち上げる中で、すぐキレる高齢者、子どもが悪いことをしても叱らない親、スマホばかりみている親、子どもには知らない人と話さないように言っているので挨拶をしないことを決めたマンション、などが話題となりました。

そんなことから、私たちの周りにある貧困は経済的な貧困だけでなく、人間関係の貧困、信頼の貧困、コミュニケーションの貧困、更に、他者を思いやる想像力の貧困、実体験の貧困、政治参加の貧困などあげられます。貧困にある子どもの状況は、一食抜いてみるだけで想像できます。正直なところ貧困だらけの日本なのではないでしょうか？ この様な課題を解決するためには、地域のつながりが大切だと言われますが、これは言うは易く、行うは難しです。私は、小さな動きでも始めること、小さな動き同士がつながること、おせっかいを恐れないこと、うまくいかなくても諦めないこと、言い出しっぺになることをためらわないことが重要と思います。地域食堂「大倉山みんなの食堂」もそんな思いで行っています。

地域食堂の開設には、常設の場で開催することが重要です。それによってさまざまな人が集まってきて、得意分野を活用する活動をマルチに展開できるので、菊名にある私の家を開いてもいいかとも思いますが、路地で参加者が来にくいかなと思案しています。今後は一日一食の給食で過ごしている子どもに、地域食堂を夏休みに少し拡大できないか、また、クリスマスの時に何もプレゼントをもらえない子どもたちはどんなに寂しいかと思い、昨年検討して開催できなかったクリスマス会の開催を検討しています。フードバンクはじめ多くの団体や皆さんの協力を得て実現していきたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

2016 年度 3 つの地域フォーラム実施概要
公益財団法人かながわ生き活き市民基金

地域	逗子	さがみ	港北
タイトル	逗子にもある新しい貧困を知る～ 食・教育・心・もちろんお金も～	さがみにもある 子どもの〈新しい貧困〉を知る	港北にもある 子どもの〈新しい貧困〉を知る ～食・教育・心・もちろんお金も～
開催日	2017 年 2 月 19 日（日） 10：00-13：00	2017 年 3 月 19 日（日） 10：00-12：30	2017 年 4 月 16 日（日） 10：00-13：00
開催場所	逗子市民交流センター	ユニコムプラザさがみはら	横浜北 Y M C A
参加者	102 名（生活クラブ 20 名）	118 名（生活クラブ 71 名）	100 名（生活クラブ 32 名）
主催	実行委員会 + 財団	実行委員会 + さがみ生活クラブ + 財団	実行委員会 + 横浜北生活クラブ + 財団
後援	湘南生活クラブ	なし	港北区
協賛	なし	なし	港北区社協、横浜 Y M C A
広報	湘南生活クラブ逗葉コモンズに配布（1500 枚）・逗子市広報誌みんなのひろば・市民協働課・福祉課を通じ民生委員・主任児童員、逗子地域掲示板・湘南ビーチ F M、市民交流センター、社協主催の学習会で配布ほか	さがみ生活クラブ組合員全員にチラシ配布（9600 枚）、タウンニュース（相模原・大和など）、登壇者周辺、さがみエリアの W . C o、相模原 W E ショップ、地域活動連携協議会参加団体、一部公民館、湘北教職員組合、桜美林大学・各新聞社、相模原市職員研修紹介ほか	横浜北生活クラブ港北コモンズ・菊名コモンズ配布・つなしまデポー置（1900 枚）組合員チラシ配布、社協を通じ民生委員、港北エリアの W . C o、ユニット参加団体、YPC）、港北エリアの拠点、YMCA、広報こうほく、タウンニュース・各新聞社、港北食支援連絡会ほか
特徴	フォーラムで「貧困」を使うか否か、繰り返し討議し、「新しい貧困」で一致。フォーラムをきっかけに 0 円食堂と連携し無料学習支援にチャレンジすることとなり、ユニット 0 円が誕生。	さがみ生活クラブはスタート集会として活用し、さがみ生活クラブ組合員リーダー 60 名参加。地域にある活動アンケートを実施。	区社協と YMCA が協賛団体となり、協力体制ができた。生活クラブの菊名・港北コモンズ大会。つなしまデポー大会で紹介。地域活動団体のチラシ・リーフレットなど資料多数配布した。
組み立て	挨拶：実行委員 鈴木登志男さん 講演：栗林知絵子さん（豊島 WAKUWAKU ネットワーク理事長）「地域みんなで子どもの未来を応援するために」 報告：ずし子ども 0 円食堂（草柳ゆきゑさん）▼学習支援 CoCoLo の会（吉原千草さん・田中雅紀さん）▼居場所 ごかんたいそう（全田和也）さん	挨拶：財団 吉村理事長 講演：湊岳美さん（相模原市スクールソーシャルワーカー）〈困難な状況を生きる子どもたちに心のよりどころとなる「場」を〉 報告：「あいおい」みんなの食堂（佐藤純子さん）▼無料学習支援・相模原みのり塾（小布施実穂子さん）▼フードバンク・ワンエイド（松本篤さん・石塚恵さん）▼さがみコミュニティ調査報	挨拶：実行委員 鈴木澄江さん 講演：西野博之さん（川崎夢パーク、フリースペースたまりば理事長）〈地域みんなで子どもの未来を応援するためにつながりあってともに生きる地域社会を目指して！〉 報告：鯛ヶ崎公園プレイパーク（山口園子さん、プレイリーダー・はんすさん）▼学習支援・港北ベんきょう会（鈴木澄江さん）▼居場所・大倉山ミエル（鈴木智香子さ

		告（矢野克子さん） コーディネーター：早川仁美さん	ん）▼港北に子ども食堂を作る会 （宇田川規夫さん）
実行委員会	逗子市民 7 人 + 財団 8/22～ 計 6 回 + 終了後 1 回	さがみ生活クラブ 4 人 + 財団で 8/12 打ち合わせ 12 月～4 回 ▼第 2 回はさがみ組織委員会メン バー、理事 + ワンエイド▼第 3 回さがみ代表者 + 登壇者	横浜北理事 1 名 + 港北区市民 3 名 + 財団 10/21～6 回
実行委員会での意見	▼めざしたい活動の提案・よびかけ・代わりあって担える居場所、逗子子ども基金も検討▼活動報告にとどめず、会場の人に具体的な支援・協力・参加を呼び掛けるアピールを行う▼居場所で子どもが落ち着かない場合、むしろ親のこころがさまよっているのを感じる。親も自尊心を大切に育てられ方をしてこなかったのかもしれない。むしろ親・これから親になるひとたちがもつこころの貧しさが気になる。▼子どもの未来を考えるフォーラムなのに、当事者である若者が参加しないとしたら、どうだろうか。逗子市の未来を担うコアとなる若者たちにこそ、来てほしい。	▼路上の人は見えやすいけど見えない貧困を投げかけることが必要▼情報のない人に広報、伝達する場が必要。人から人へ伝え、「網」に乗せる。伝える人を増やす。▼参加した人が、そこで終わることなく、アクションにつなぐ具体的な協力への呼びかけをする。 ▼講演・報告を聞いただけではなく、形にしていく。▼何をメッセージするか、関係者が集まって話す会が必要▼一般的な貧困問題を学ぶのか、地域の課題を学ぶのか、居場所等の拡大につなぐのか。詰める必要がある。時間がないなかで、できることを重ねていく▼支援の情報を必要な人に届けるのにはデリケートなだけに工夫が必要。	▼横浜市の空き屋活用のヒアリングでは空き屋などの資源を、住民主体の総合支援につなげていこうとしている。子ども食堂などが登場すると、子ども・高齢者等包括的な支援といったことにもつながるのではと期待する▼貧困の救済ではなく、地域の課題解決の場としてのみんなで食べる地域食堂や地域が見えるコンビニ調査も有効ではないか▼フォーラムを、地域つながり・コミュニティでの様々な場の設定を、多様に練りあう場にしたい▼報告が主ではなく会場での意見交換が主になるとよい▼私的だが地域に拓かれたパブリックな場所をつくることを訴えたい▼生活する場で自分たちが主体となり、集える場をつくろうとする活動が大事
参加者メッセージ	▼民生委員の方が 0 円食堂に声を挙げたのは心強い。行政との連携例として参考になる。▼高齢者サロンの夕方・夜の時間を子どものために検討したい。▼自力で子ども食堂を立ち上げるパワーはないが、久木会館での立ち上げ予定にお手伝いをしたい。▼3 人の子どもの父親として非常に興味のあるお話。私は IT プログラムのエンジニアをしている。子どもたちのためにお手伝いができることがあれば参加したい。	▼小学校の養護教諭をしていますが、貧困に接する機会が数多くある。このような形でサポートされている熱意を感じ、自分も職場でアンテナを張って支援に繋がれるように頑張りたい▼貧困に気付いたときどんな支援を出来るか考えるための学びになった。▼養護教諭と看護師資格がある。課外活動でボランティアしたい▼<安全第 2>のお話し納得。チラシ置きに協力する。▼畑の手伝いします。	▼初めて新聞・TV でなく貧困を聞く機会がもてた。▼支える覚悟まではないがお手伝いしたい▼子ども支援が必要な実情を知り、ビックリしている。これからの私の生き方を考え直したい▼こんな活動があるなんて！初めて知った。地域の他の方々にも伝えたい▼生活保護世帯に限定した学習支援活動が横浜市内にあったなんて全然知らなかった。ただただ、感動。▼子育て終了ですが、よその子にも関わり続ける覚悟を持てることを考えたい

あ と が き

本報告書に使用した図やグラフ・写真は、当日の資料からの抜粋を基本としています。
そのため、細かな文字が見えにくいこともあります。ご容赦ください。

感 謝

それぞれ、日ごろの活動にご多忙な中、フォーラム開催に実行委員として、講演者として、登壇者として関わり、報告書作成にも快くご協力して頂いた皆様に心より御礼申し上げます。

子どもの未来を応援したいという思いを持つ、おおぜいの皆様のご協力を頂きました。
これからも、共に活動を進めてまいりたいと存じます。

本文はテープ起こしのボランティア活動で作成いたしました。ご協力に感謝いたします。

フォーラムは福祉たすけあい基金へのご寄付を活用させていただき、開催することができました。福祉たすけあい基金の寄付者の皆様にも感謝いたします。

このフォーラム・報告書は福祉たすけあい基金を活用しました。 公益財団法人かながわ生き生き市民基金を寄付で応援してください。

私たちは、
地域の課題にいち早く気づき、主体的・先駆的・持続的な市民参加型の
活動を行う非営利の市民活動を、
助成や相談などで支援し、
今、社会で起きている課題をフォーラムや研究会などで可視化、共有化し、
市民活動への問題提起を行っています。

具体的には

- ★月100円の寄付、年間1,200円の市民寄付により運営しています。
- ★2013年設立以来市民の寄付により、2017年3月までに89団体に約3,000万円以上を助成しました。
- ★「子ども・若者の孤立と貧困に立ち向かう市民活動を支援するフォーラム」、3地域でのフォーラム（本報告）、「マイクロクレジット研究会」を開催し、＜仮称フードバンクかながわ検討会準備会＞につなぎました。
- ★公益財団法人かながわ生き生き市民基金への寄付による支援をお願いします。

ご寄付は 財団ホームページから、あるいは045-620-9044へご連絡ください。
すぐに対応させていただきます。



寄付税制の活用

公益財団への寄付は、所得税・市民県民税、
企業の特別損金参入が適用される税制の優遇を活用することができます。



発行：公益財団法人 かながわ生き生き市民基金

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜2-2-15 パレアナビル6F

Tel: 045-620-9044 Fax: 045-620-9045

Mail: info@lively-citizens-fund.org

URL: <http://www.lively-citizens-fund.org/>

Facebook: <https://www.facebook.com/livelycitizensfund>

発行日 / 2017年7月

表紙デザイン：企業組合エコ・アド / 印刷製本：田安製本